

2020 年
地域福祉部会
アンケート
結果報告

2021 年 1 月

1. 調査目的

本アンケート調査は、地域福祉に関する意識やニーズを調査し、計画策定の基礎資料とするために実施した。

2. 方法

(1) 調査票の配布方法

町内在住の満 20 歳以上の日本国籍住民から性別・年齢階層別の比率で対象を無作為に 800 人抽出し配布した。

(2) 調査期間

① 発送：2020 年 6 月 2 日（火）

② 回収期限：2020 年 6 月 22 日（月）

3. 調査票配布先

調査票は、下記の表のとおり、性別・年齢階層別に対象を抽出し、配布した。

年齢階層	性別		全体
	男	女	
20 代	57	46	103
30 代	53	38	91
40 代	80	75	155
50 代	64	63	127
60 代	65	64	129
70 代	57	59	116
80 代以上	31	48	79
全体	407	393	800

4. 調査票

調査票は、報告書末に掲載した。

5. 結果

(1) 調査票回収率

調査票を返送した者は 372 人であった。

よって、調査票の回収率は、 $372 \text{ 人} / 800 \text{ 人} = 46.5\%$ であった。

(2) 解析対象者

回収した 372 人分の調査票のうち、性別または年齢についての情報が欠損している者（無回答）が 4 人いた。

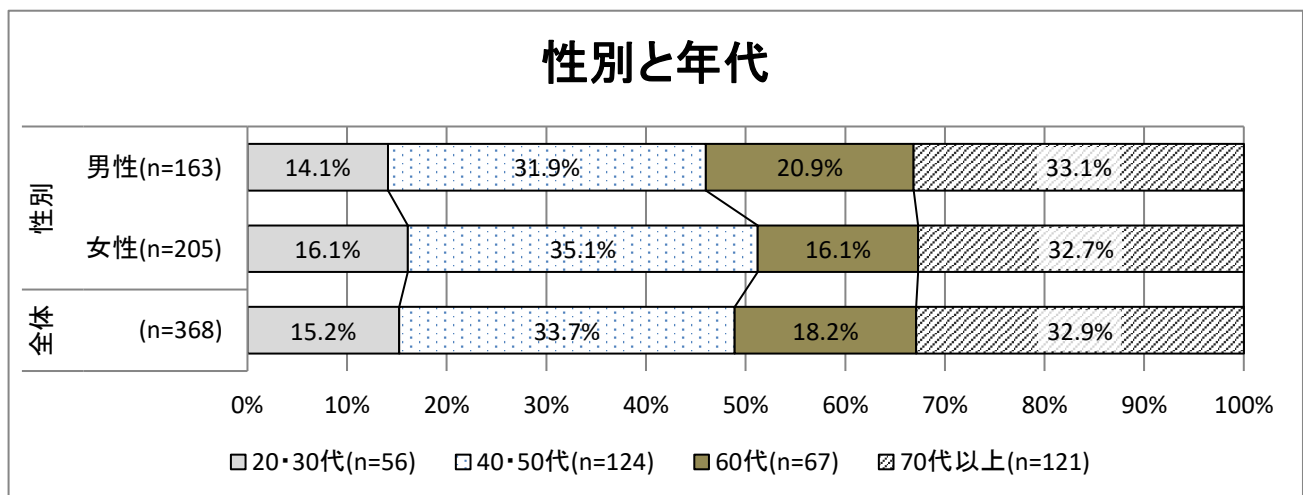
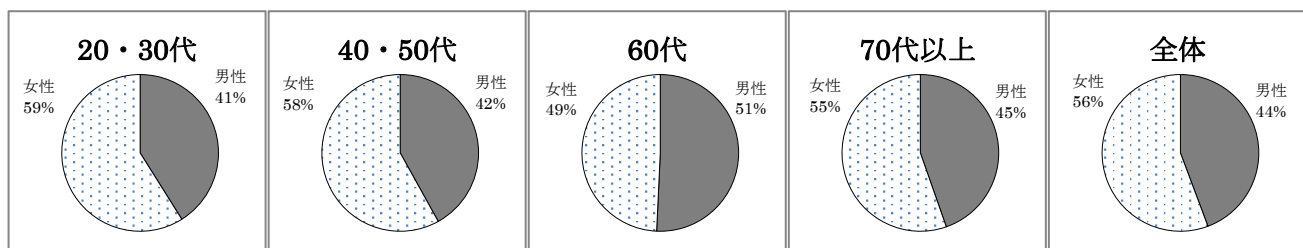
欠損者を除いた 368 人（回収率 46.0%）を解析対象者とした。

年代を 20・30 代、40・50 代、60 代、70 代以上の 4 階層に分け解析を行った。

問 1 居住区

	全体	割合	回収率	性別		年代			
				男性	女性	20・30代	40・50代	60代	70代以上
沢	52	14%	42%	24	28	5	26	8	13
大出	32	9%	53%	11	21	2	7	9	14
八乙女	12	3%	67%	5	7	1	5	1	5
下古田	7	2%	58%	5	2	0	1	2	4
上古田	10	3%	36%	4	6	0	4	3	3
中原	3	1%	19%	1	2	2	0	0	1
松島	96	26%	45%	47	49	17	31	16	32
木下	83	23%	47%	36	47	18	27	12	26
富田	4	1%	50%	2	2	0	0	2	2
中曽根	7	2%	64%	3	4	1	1	5	0
三日町	11	3%	38%	3	8	4	5	0	2
福与	14	4%	52%	5	9	1	4	3	6
長岡	11	3%	42%	5	6	1	5	2	3
南小河内	8	2%	50%	3	5	2	4	0	2
北小河内	16	4%	46%	7	9	2	4	3	7
無回答	2	1%		2	0	0	0	1	1

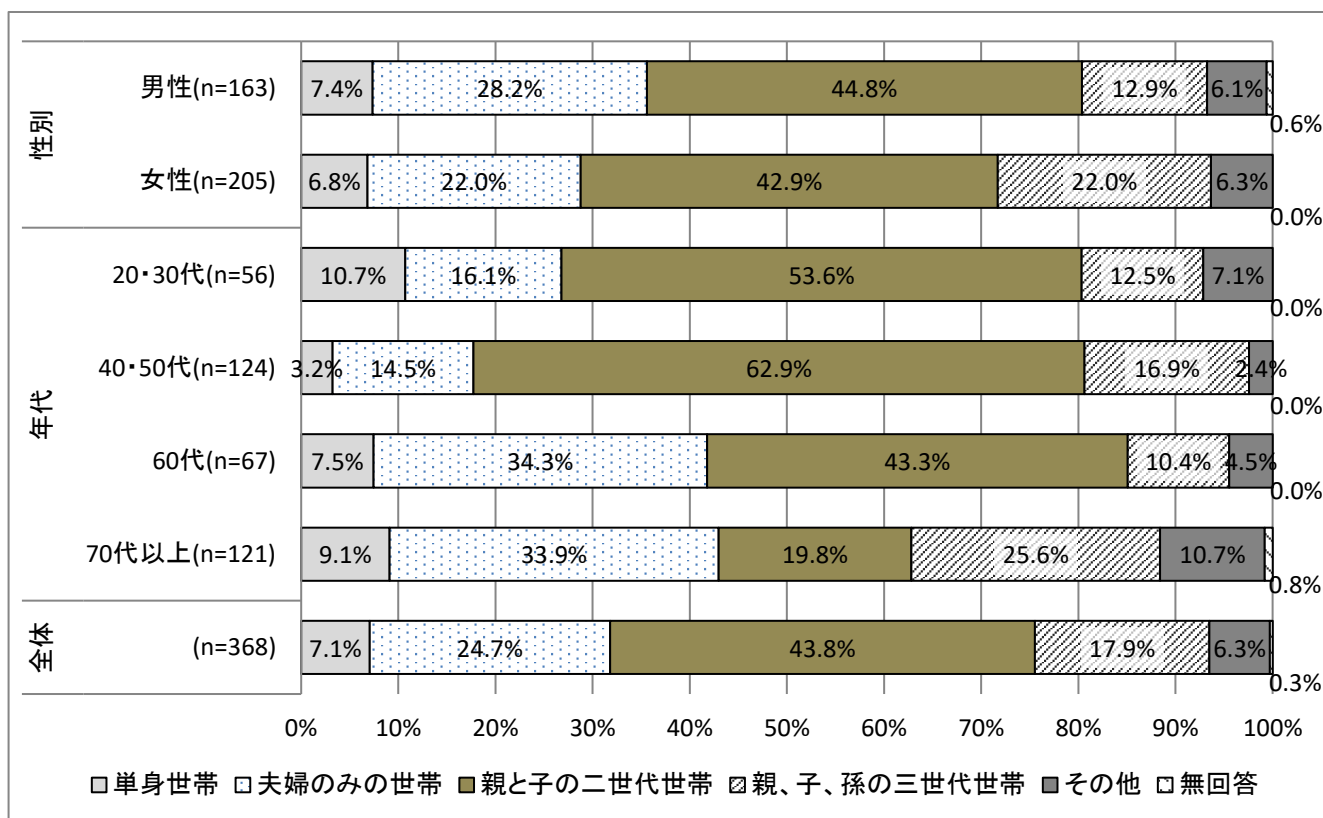
問 2 性別、問 3 年代



年代を 20・30 代、40・50 代、60 代、70 代以上の 4 階層に分け解析を行った。

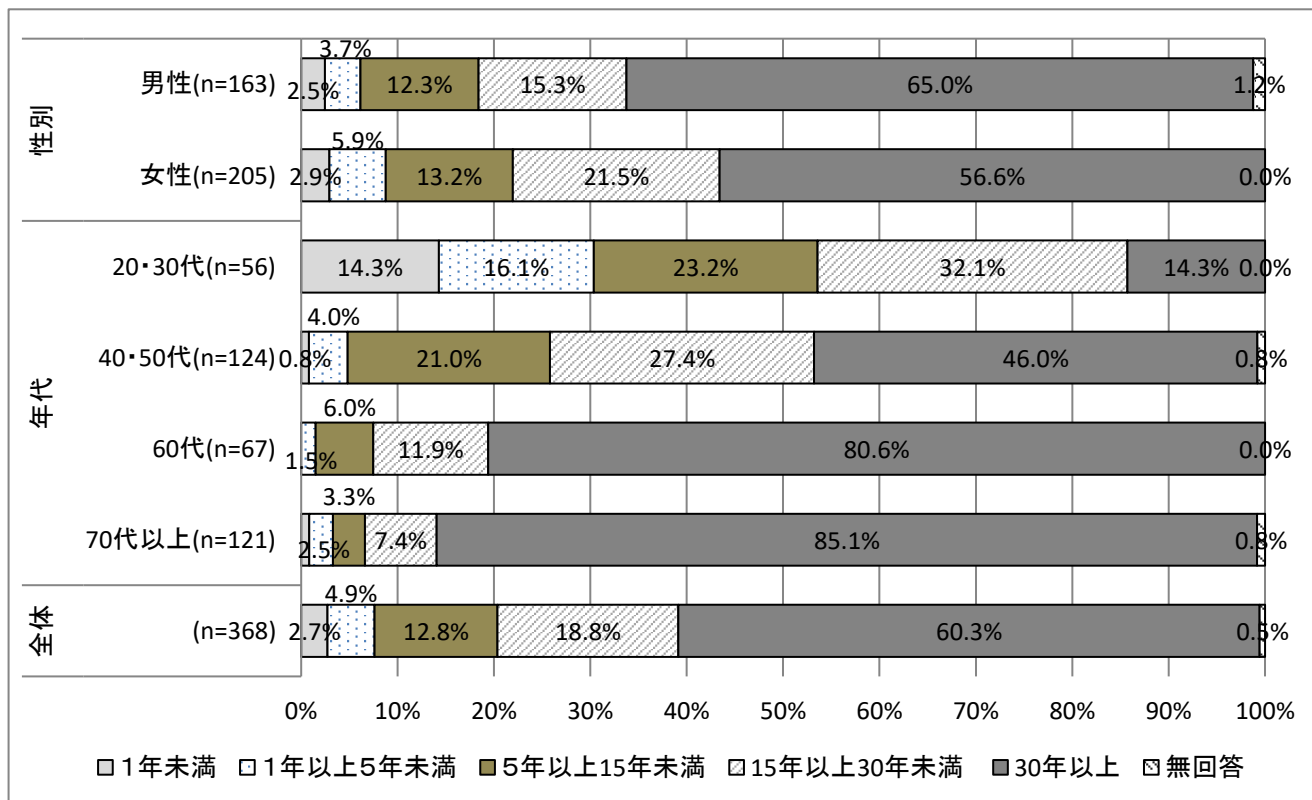
本アンケート解析対象者は、性別では女性のほうがやや多く、年代は 20・30 代と 60 代が 40・50 代と 70 代以上の半分程度となっている。

問4 世帯構成



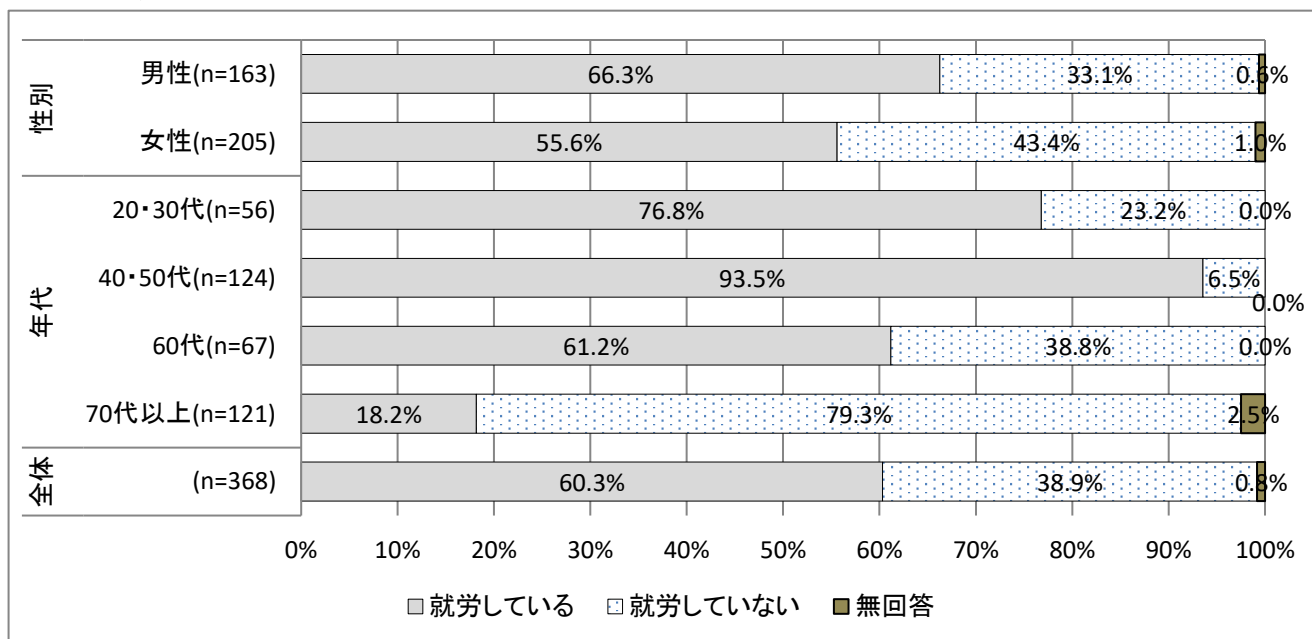
全体では「親と子の二世帯世帯」が約44%で一番多い。20代から60代まで親と子の二世帯世帯が一番多いが、60代より夫婦のみ世帯が増え、70代以上は夫婦のみ世帯が一番多くなっている。

問5 町内での居住年数



全体として「30年以上居住している」が6割を占めている。
男性のほうが30年以上居住している方が多い。

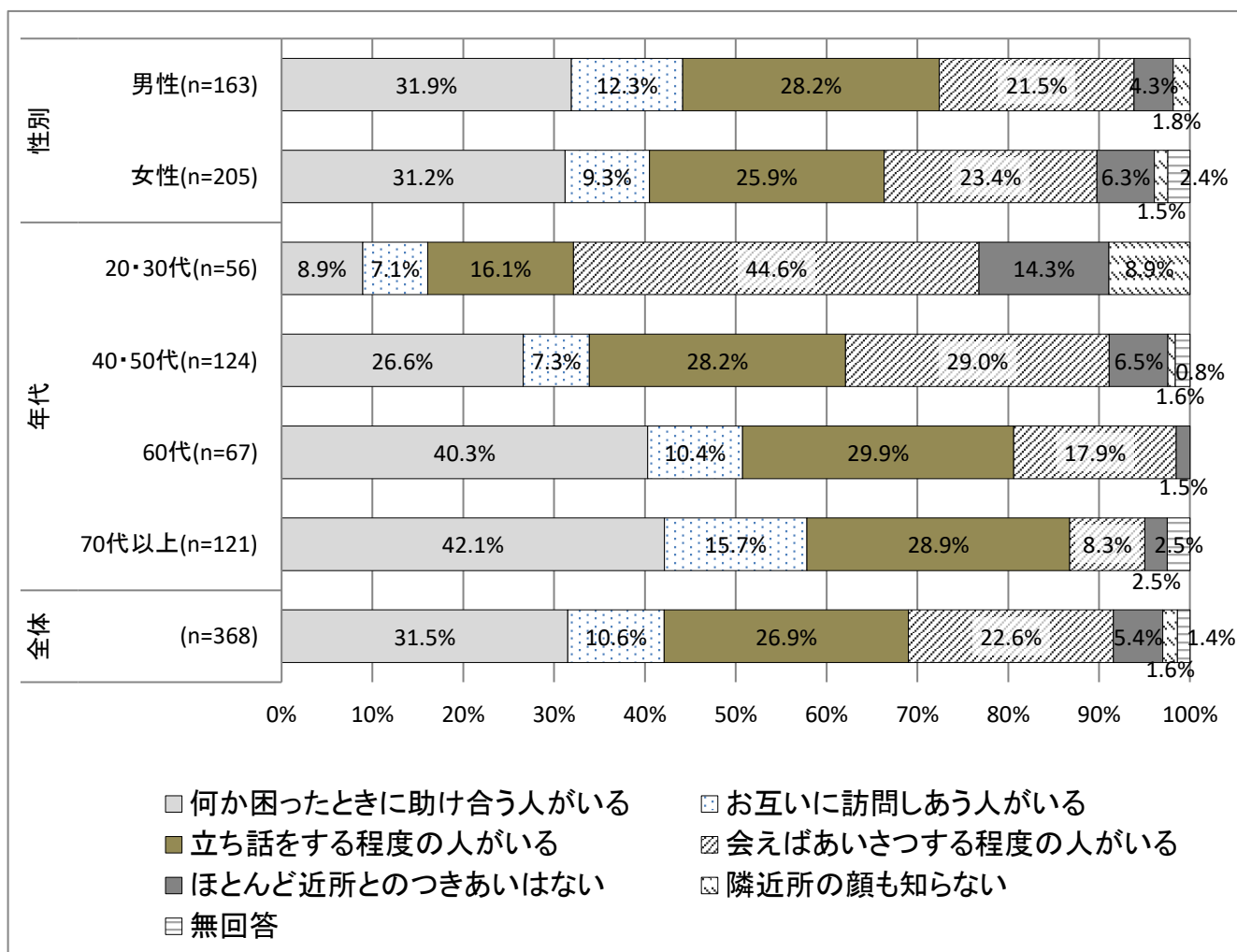
問 6. 就労状況



全体の 6 割の方が就労している。男性のほうが女性よりも就労している。

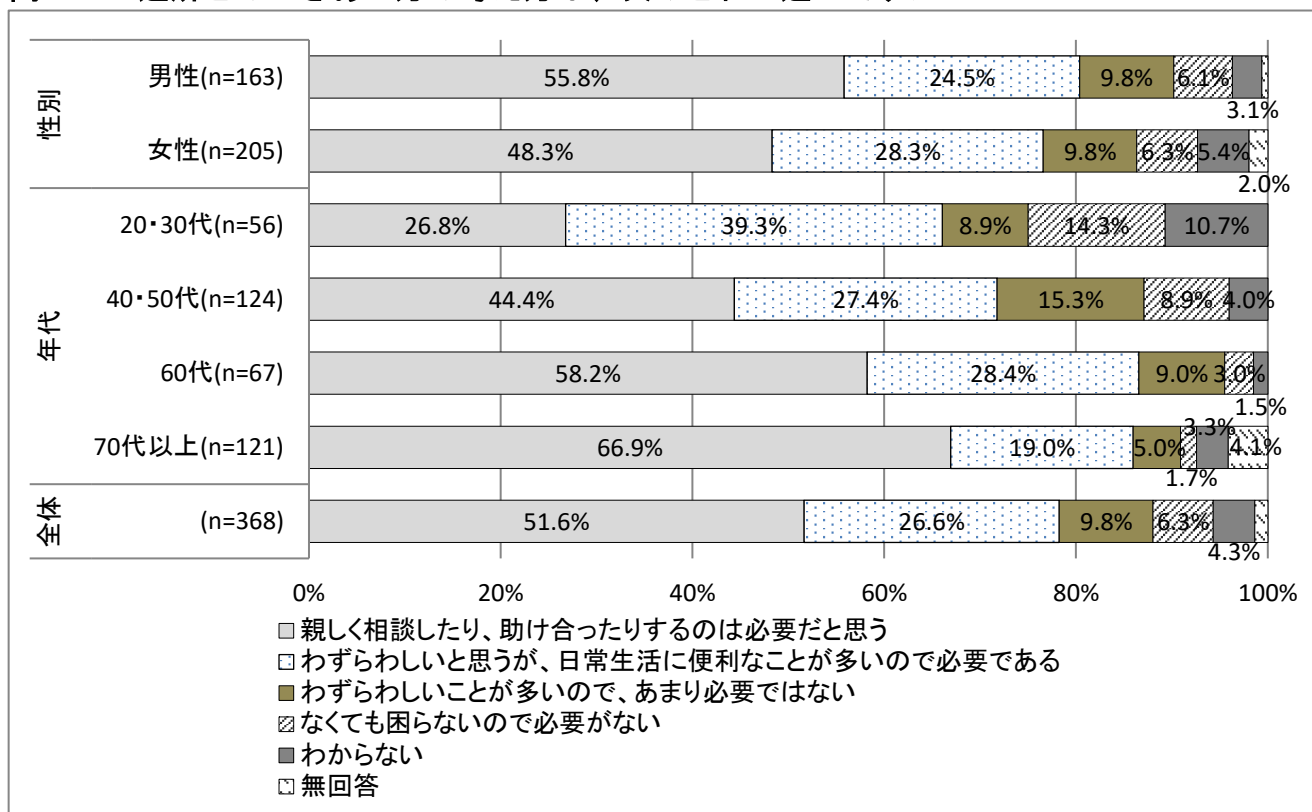
40・50 代をピークに就労している割合が少なくなっている。

問 7 ご近所との関係は次のどれに最も近いですか



全体では「何か困ったときに助け合う人がいる」、「立ち話をする程度の人がある」、「会えばあいさつする程度の人がある」の順となっている。年代が増えるにつれて「何か困ったときに助け合う人がいる」の割合が増えている。

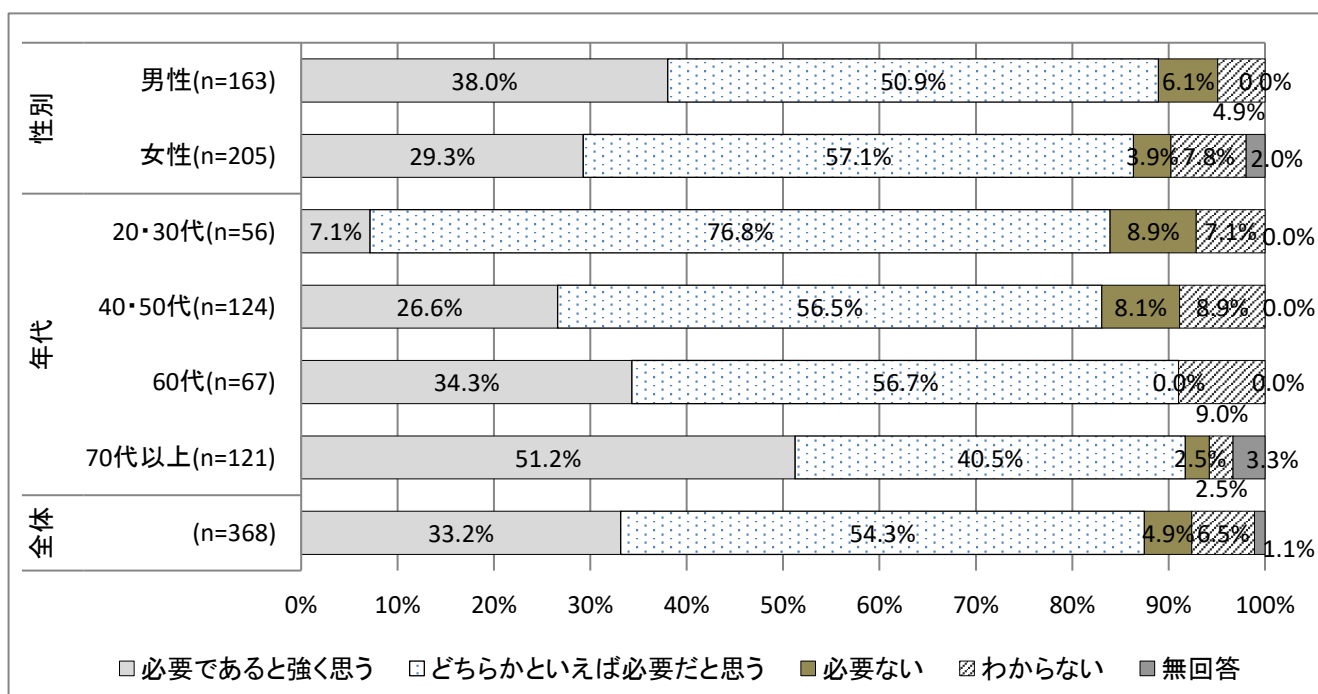
問8 ご近所とのつきあい方の考え方は、次のどれに近いですか



全体の約50%が「親しく相談したり、助け合ったりするのは必要だと思う」。

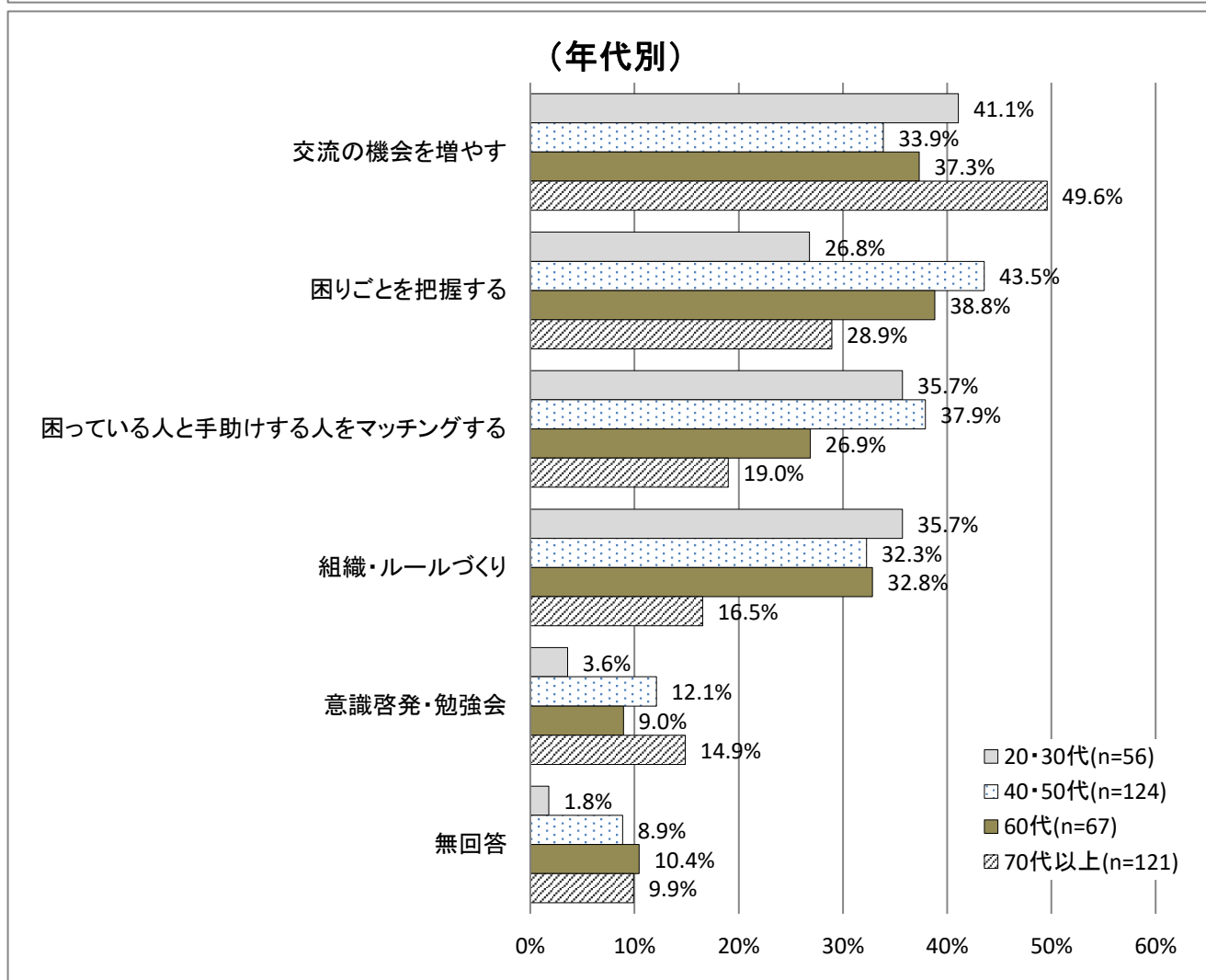
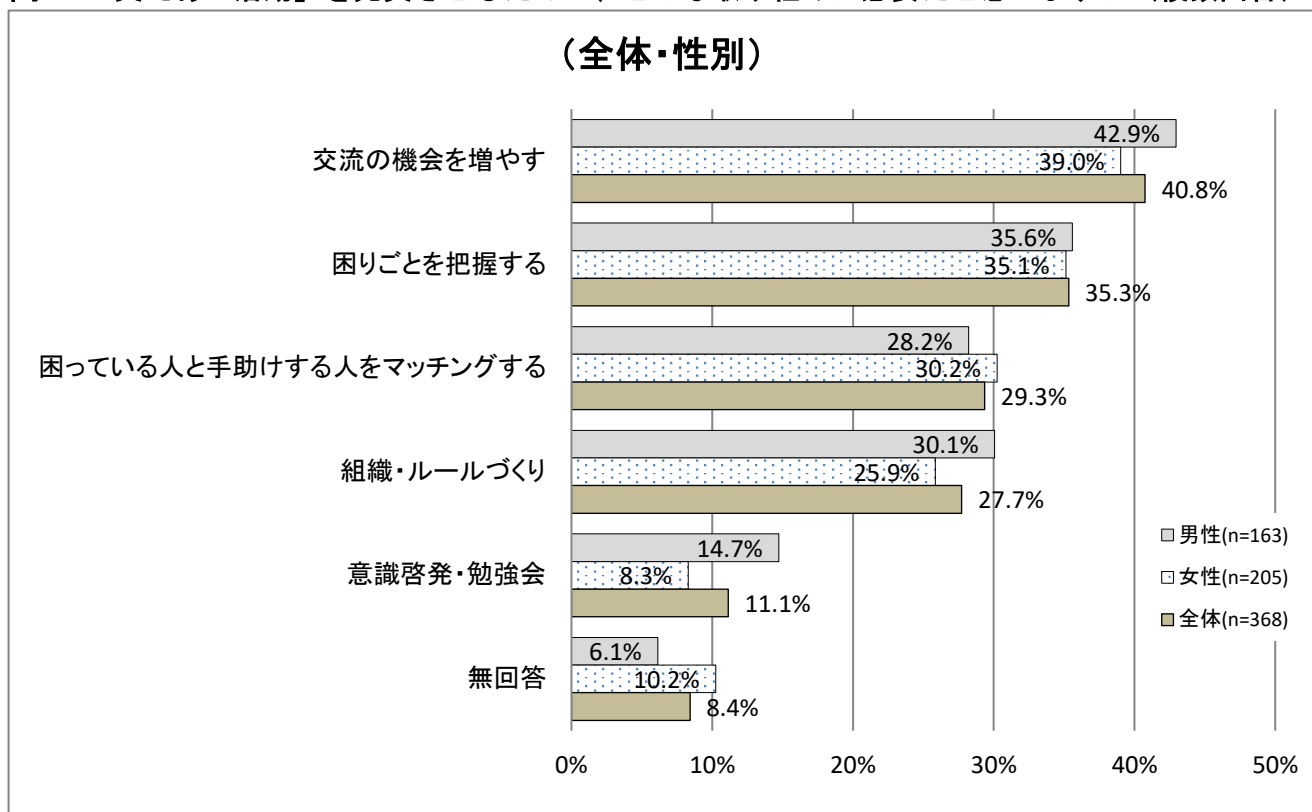
どの年代でも「親しく相談したり、助け合ったりするのは必要だと思う」が一番多く、年代が増えるにつれて割合も増加している。

問9 地域やご近所での「支えあい活動」は必要だと思いますか



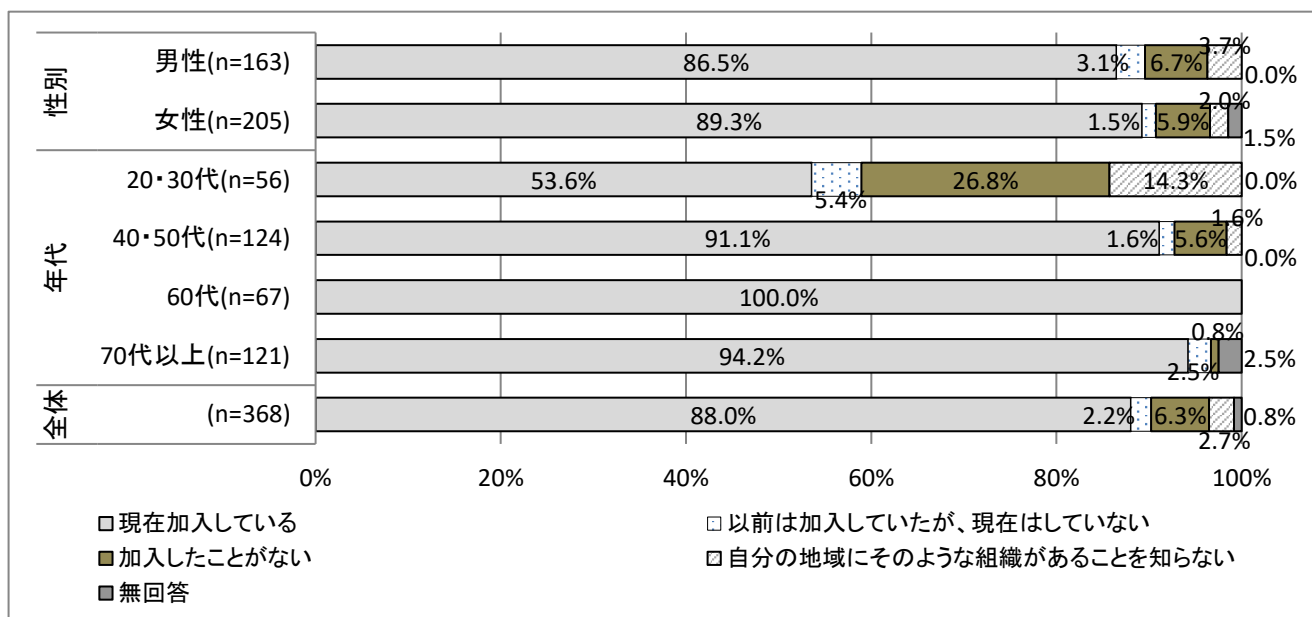
全体では「必要であると強く思う（33%）」、「どちらかといえば必要だと思う（54%）」の8割が支えあい活動は必要だと思っている。どの年代も8割~9割が支えあい活動が必要だと思っているが、年代が増えるとともに「必要であると強く思う」が増加している。女性よりも男性のほうが「必要であると強く思う」の割合が多い。

問 10「支えあい活動」を充実させるために、どんな取り組みが必要だと思いますか（複数回答）



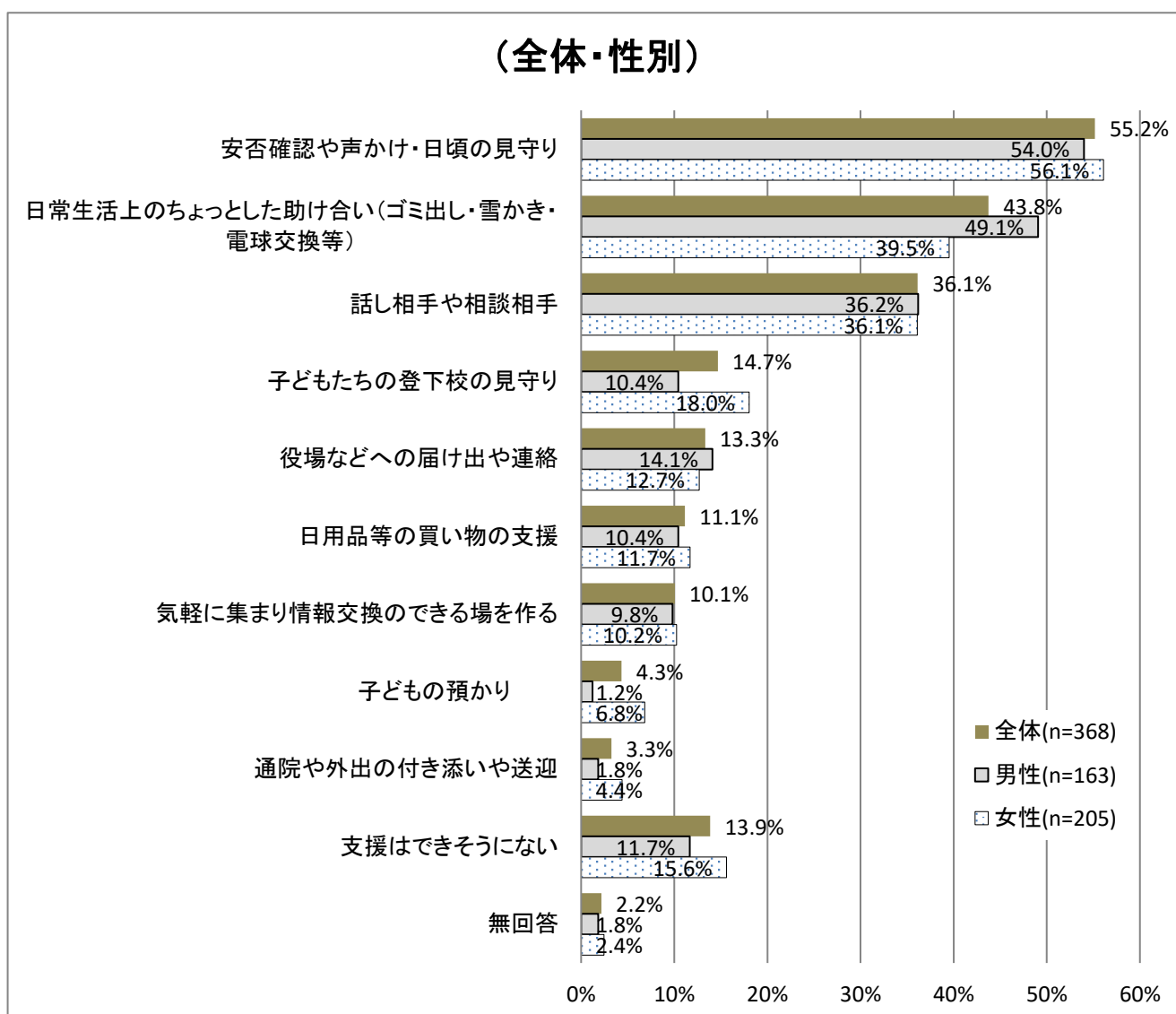
意識啓発・勉強会よりも具体的な取り組みの必要性を選択している方が多い。年代により具体的取り組みの考え方には違いがある。男女差はない。

問 11 常会に加入していますか

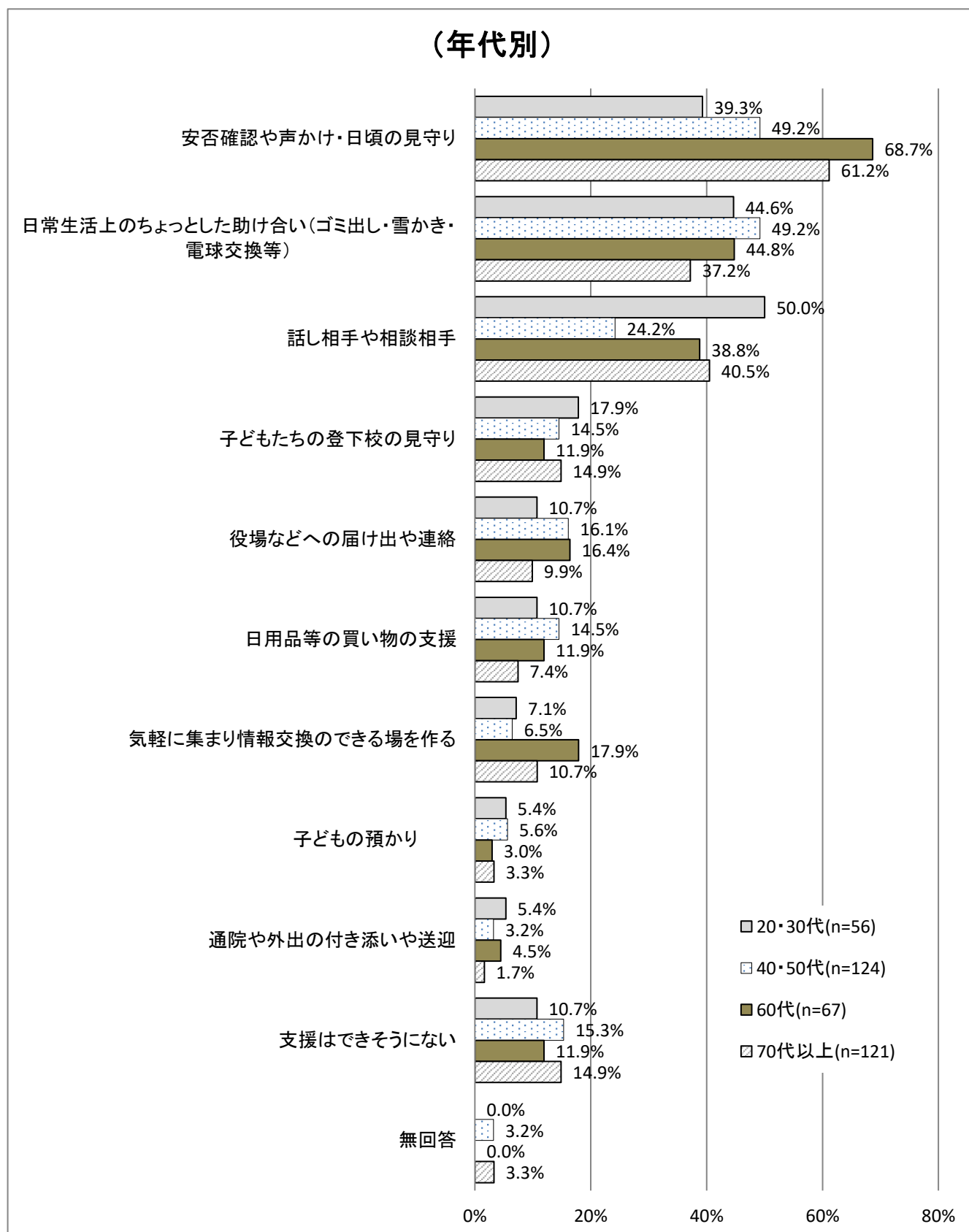


40代以上の約90%が常会に加入している。20・30代は53%が加入者であるが、同居世帯の親が加入している可能性もある。

問 12 ご近所の人困っているとき、あなたができることやできそうなことは何ですか。(複数選択)



ご近所の人困っているとき、あなたができることやできそうなことは何ですか。(複数選択)

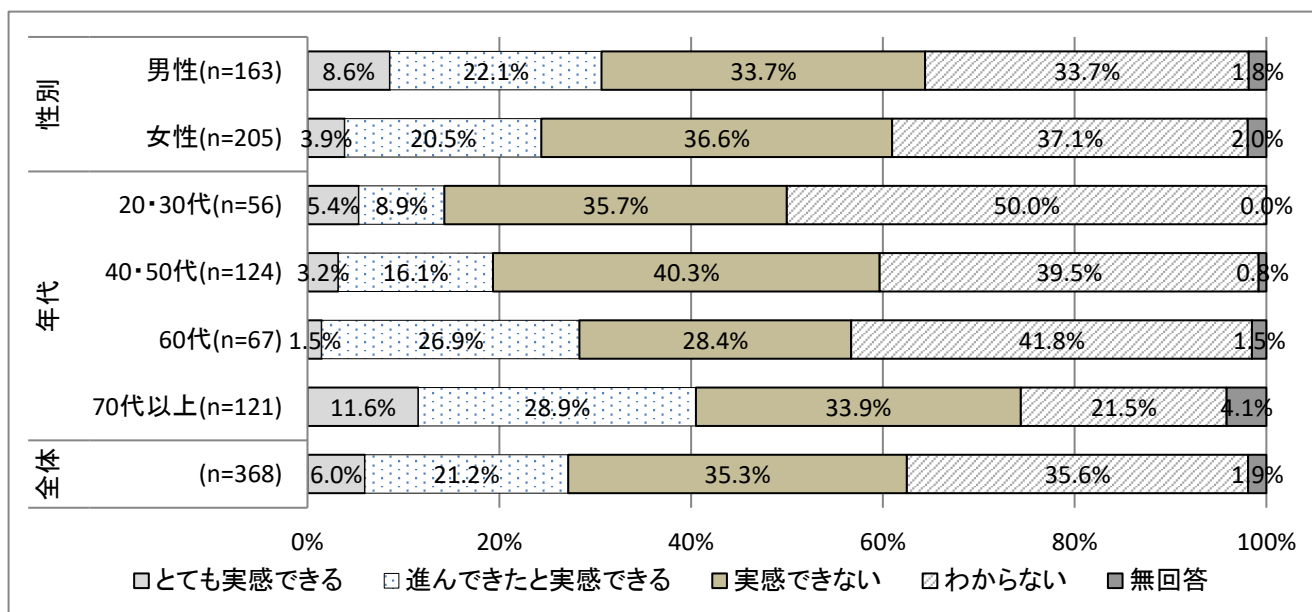


全体では「安否確認や声かけ・日頃の見守り」、「日常生活上のちょっとした助け合い(ゴミ出し・雪かき・電球交換等)」、「話し相手や相談相手」の順が多い。

年代によりできそうと選ばれる項目に違いが見られる。男女差は大きな違いはないが、男性は「日常生活上のちょっとした助け合い」、女性は「子どもたちの登下校の見守り」がやや多い。

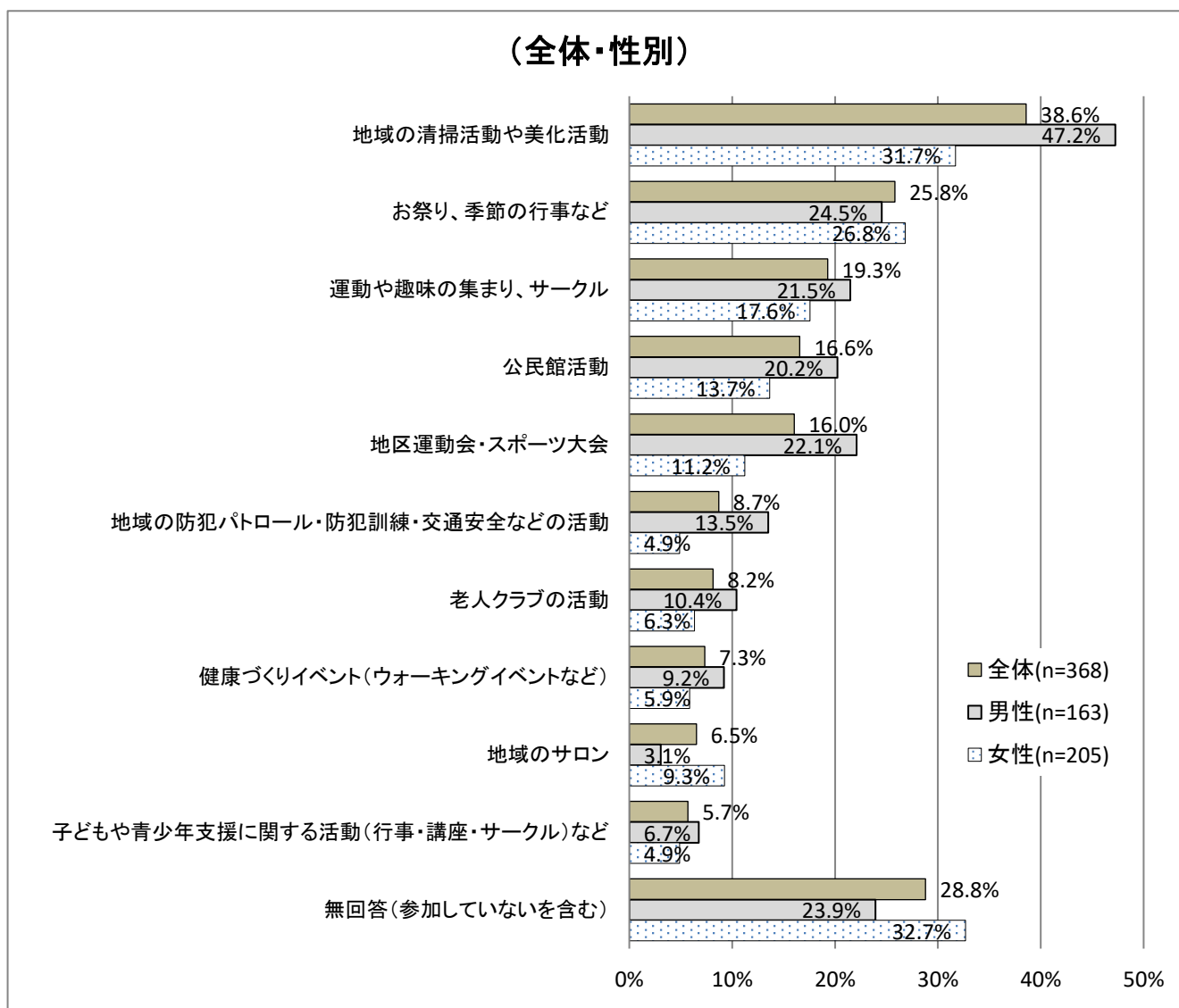
「子どもの預かり」や「通院や外出の付き添いや送迎」は割合が少なく、14%は「支援できそうにない」を選ばれている。

問 13 平成 26 年から各区において「支えあい活動（ごみ出しや雪かきなどの支援）」の充実に取り組んでいます、普段の生活で実感できますか。

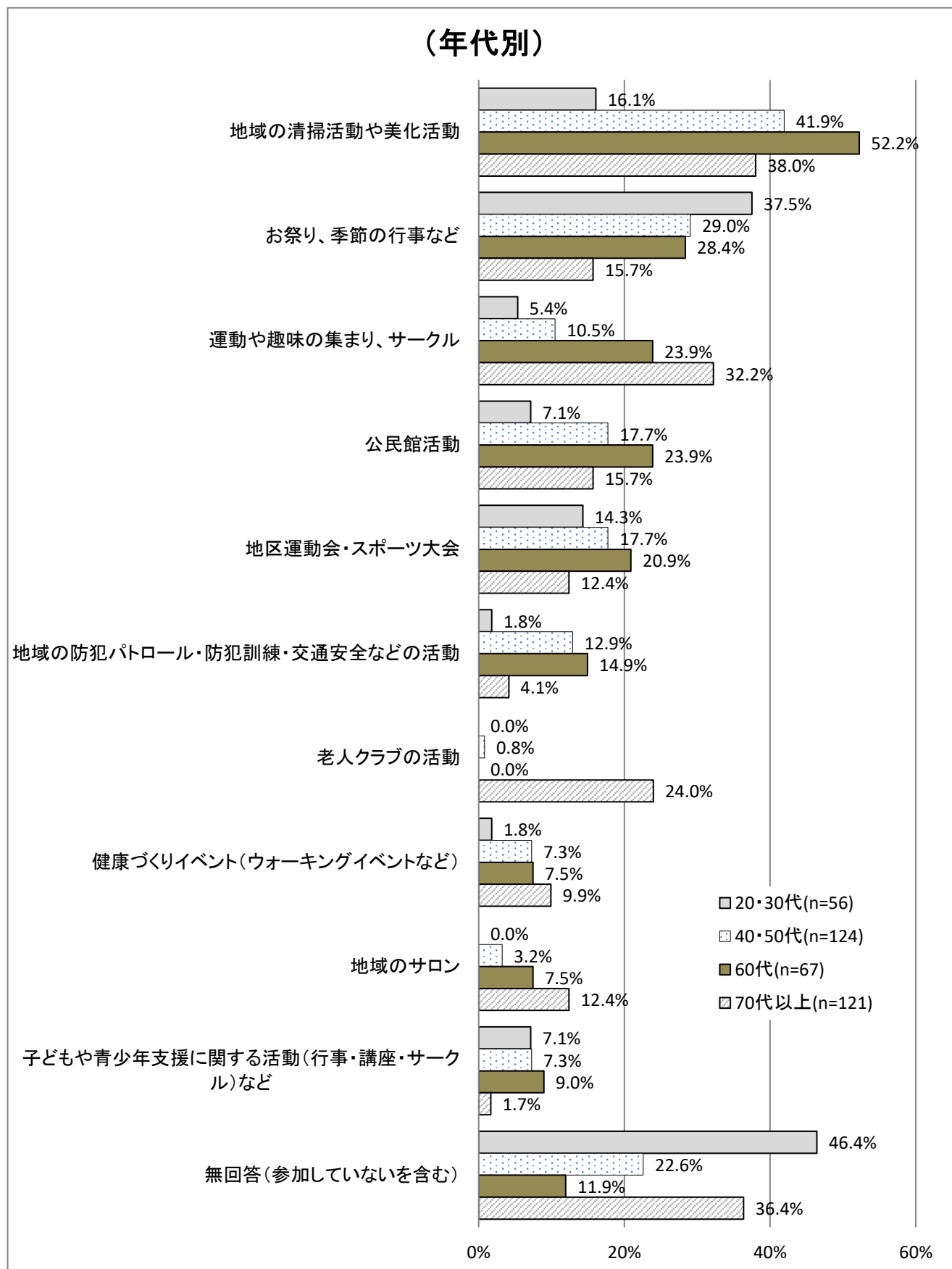


全体の 27%は支えあい活動を実感されているが、35%は実感できていなく、36%はわからないと選択している。若い世代は実感がないが、年代が増えると実感している方も増えている。

問 14 ここ 1 年以内で、あなたは地域で行われた活動に参加していますか。（複数選択）



ここ1年以内で、あなたは地域で行われた活動に 参加していますか。(複数選択)

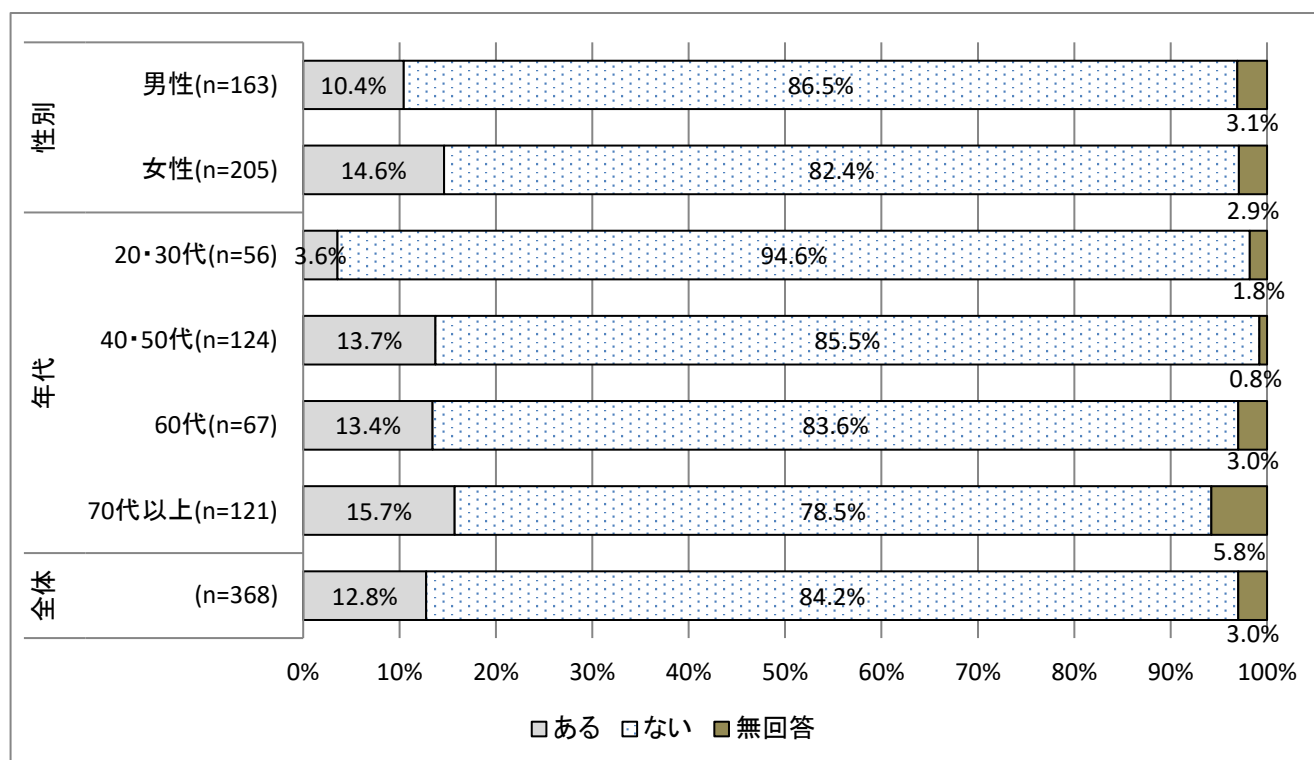


全体では「地域の清掃活動や美化活動」、「お祭り、季節の行事など」、「運動や趣味の集まり、サークル」の順となっている。各項目により男女差や年代差が見られている。

20・30代は「お祭り、季節の行事など」、40・50代・60代は「地域の清掃活動や美化活動」が多く、60代以上は「運動や趣味の集まり、サークル」が増加している。

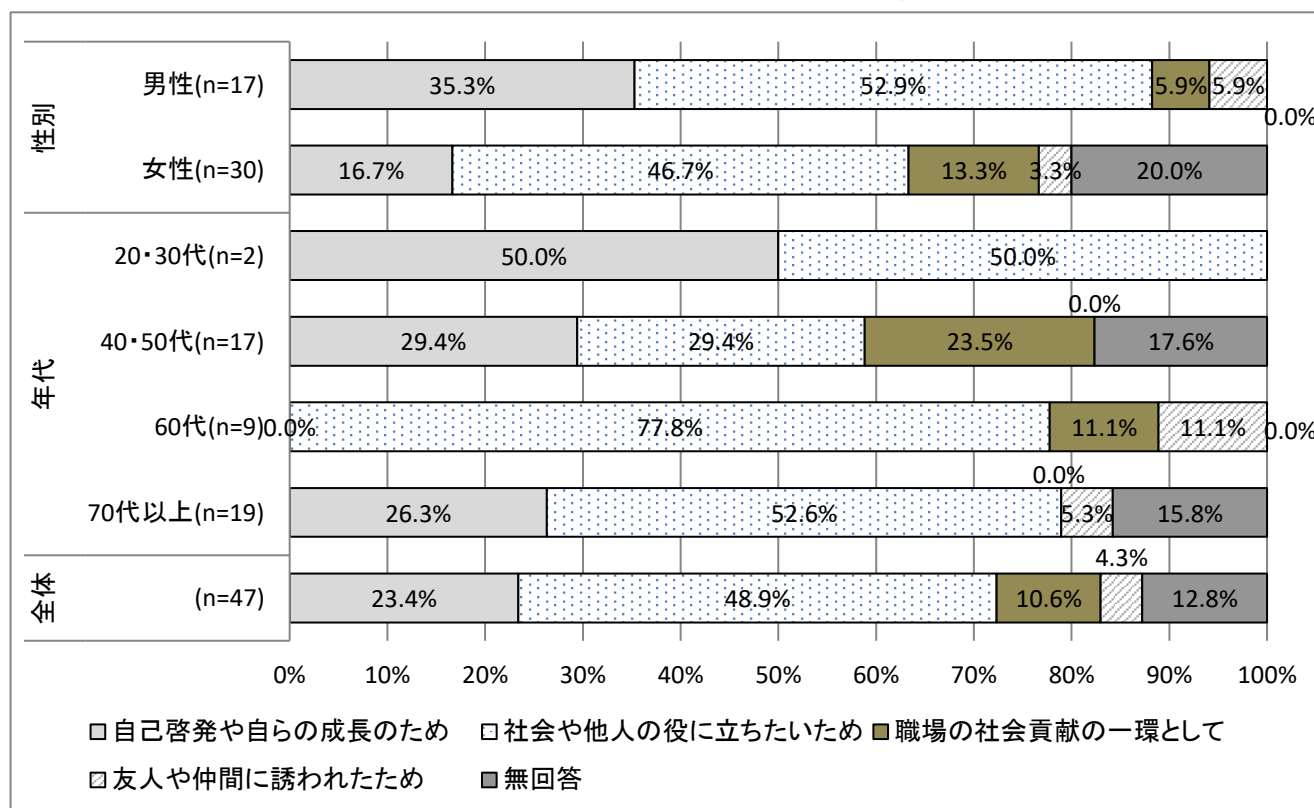
約3割が無回答であり、ここ1年間で地域活動に参加していない層もいることがわかる。

問 15 ここ 1 年の間にボランティア活動に携わったことがありますか。
※ただし地域の奉仕活動は対象外とします。



ここ 1 年間にボランティア活動に携わったことがある方は全体の約 13%であった。年代別では 20・30 代が約 4%だが、40 代以上は約 14%である。

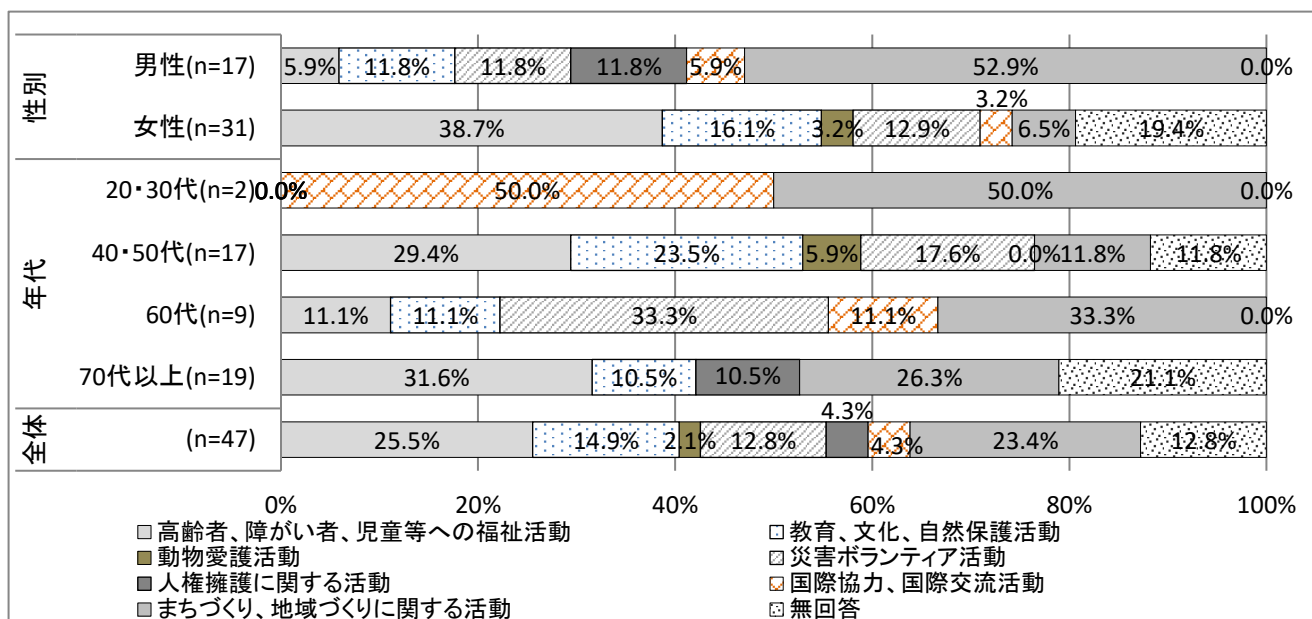
問 16 【問 15 で「1 ある」とお答えした方にお聞きします】
あなたがボランティア活動に参加をした理由は何ですか。(一番当てはまるもの 1 つに○)



全体では「社会や他人の役に立ちたいため」、「自己啓発や自らの成長のため」、「職場の社会貢献の一環として」の順であった。

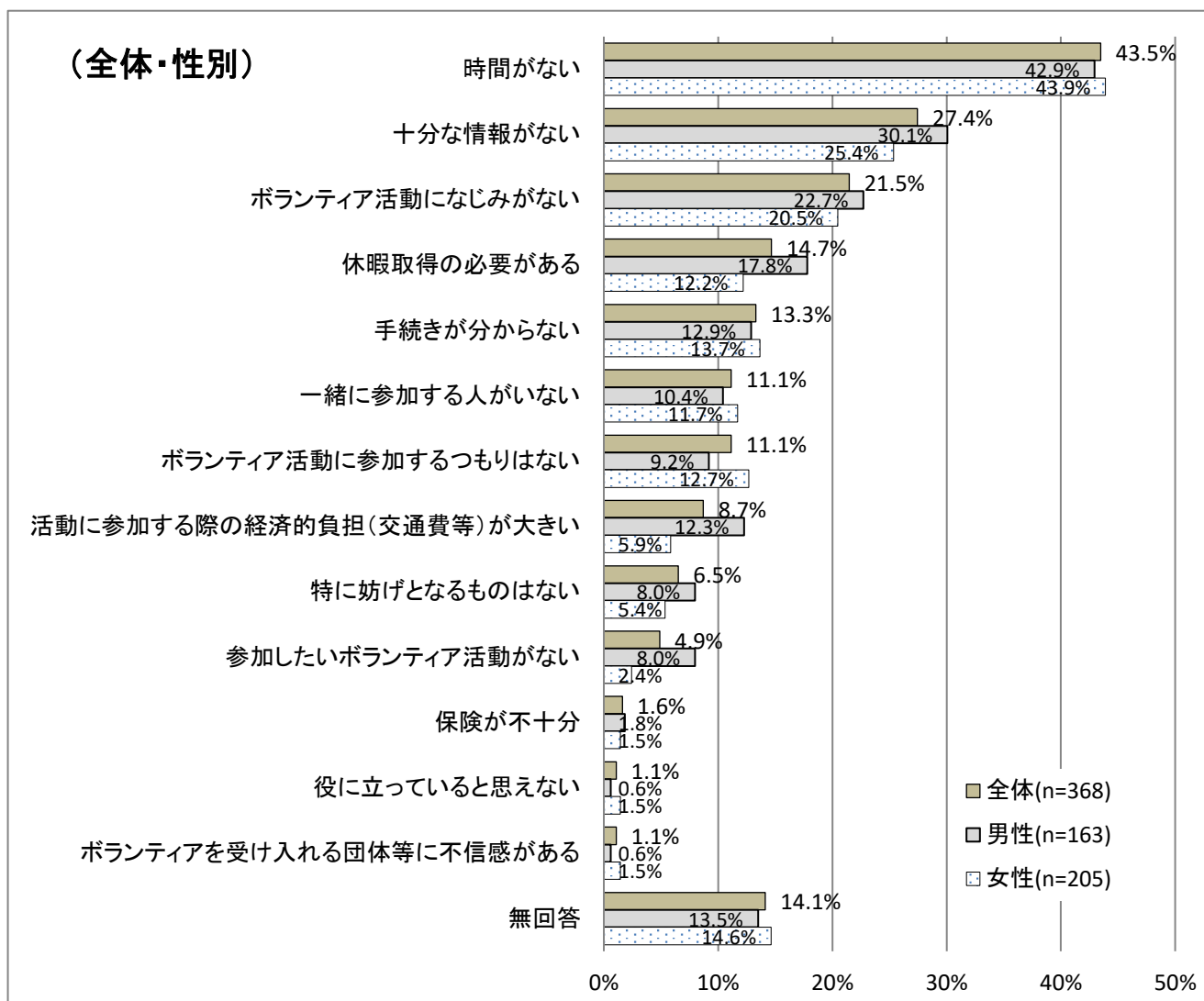
問 17 【問 15 で「1 ある」とお答えした方にお聞きします】

あなたはどのような分野のボランティア活動に参加しましたか。（一番当てはまるもの1つに○）

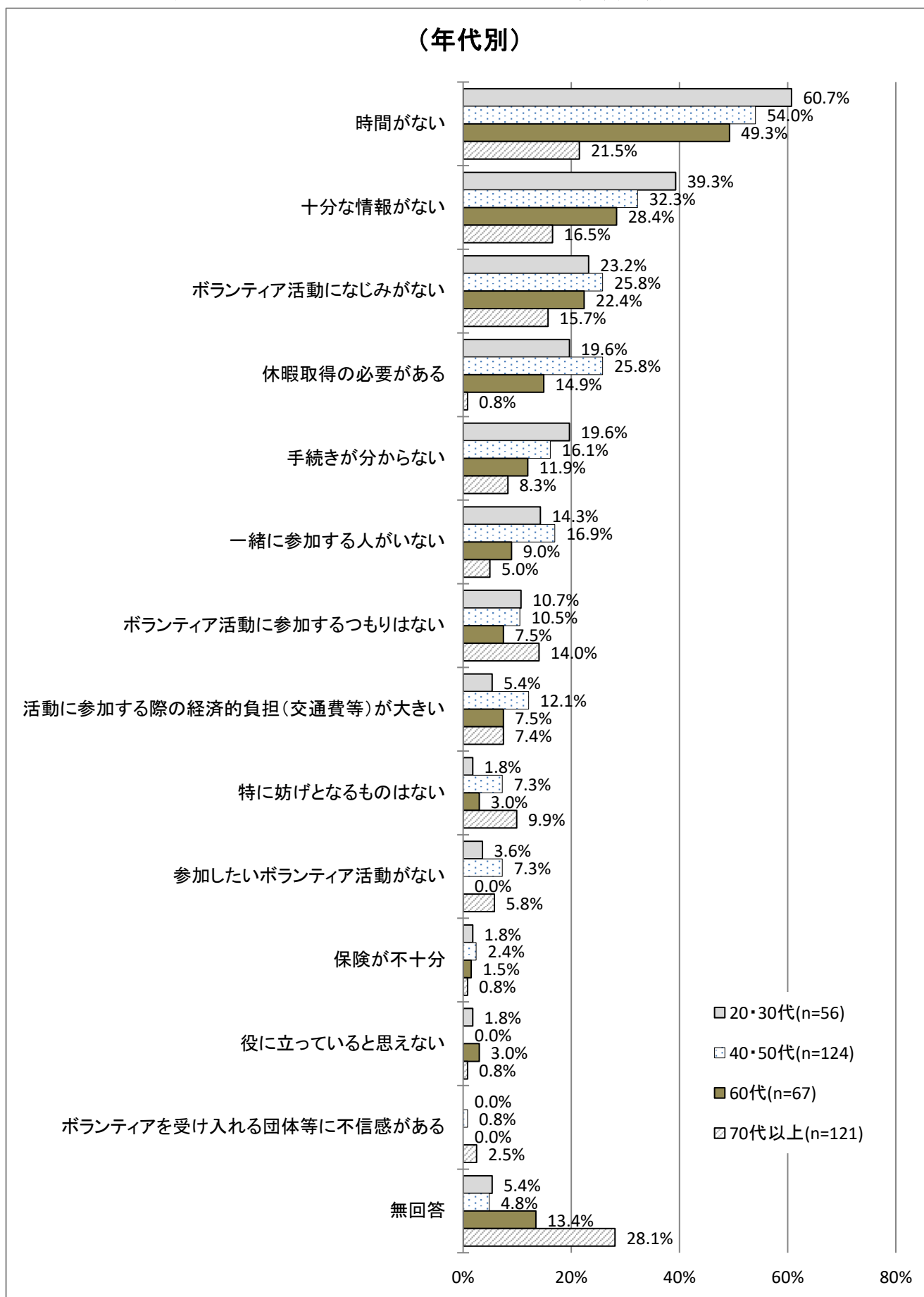


全体では「高齢者、障がい者、児童等への福祉活動」、「まちづくり、地域づくりに関する活動」、「教育、文化、自然保護活動」の順となっている。男性は「まちづくり、地域づくりに関する活動」が多く、女性は「高齢者、障がい者、児童等への福祉活動」が多い。

問 18 ボランティア活動の参加の妨げとなるものは何ですか。（複数選択）



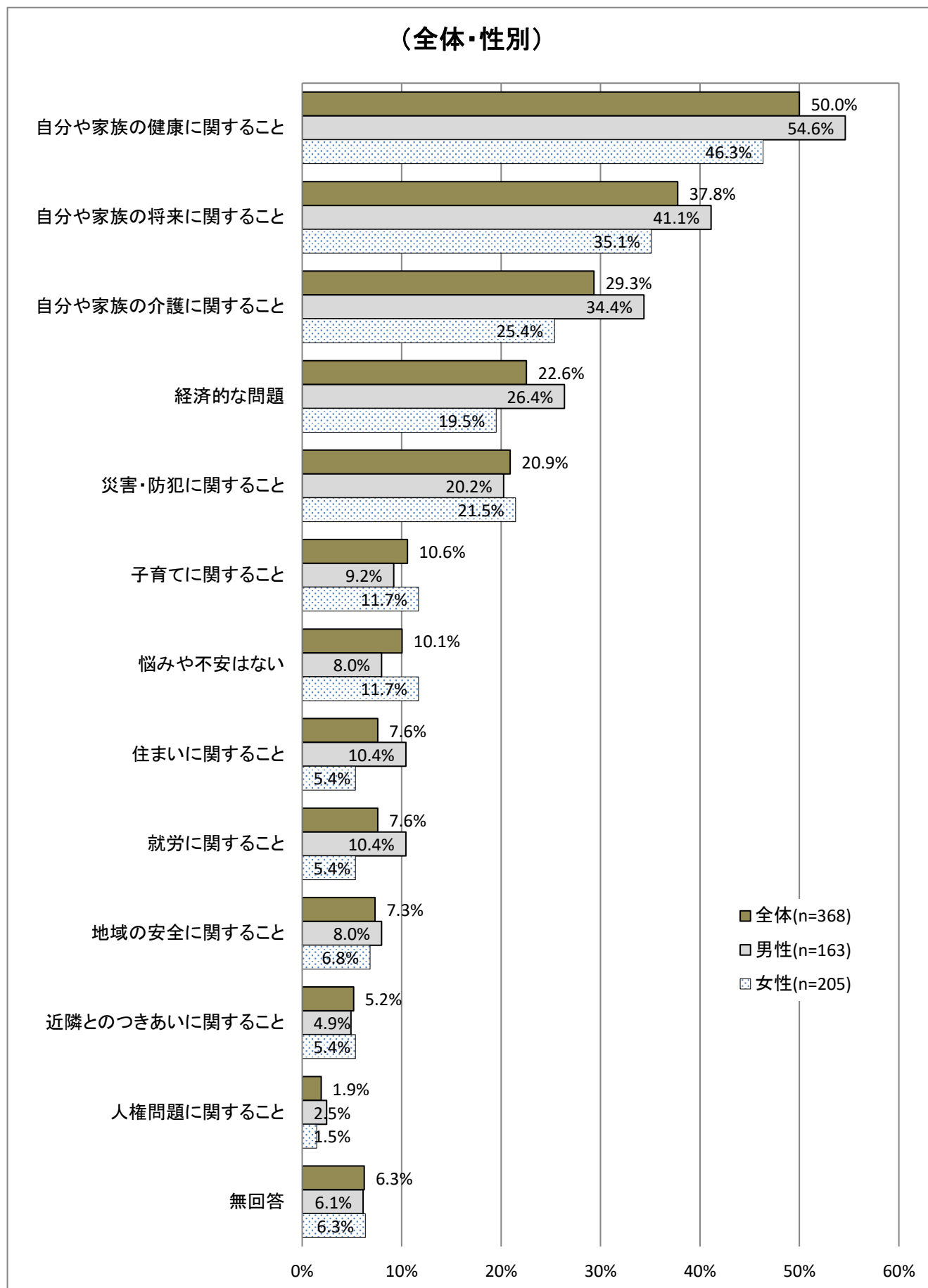
ボランティア活動の参加の妨げとなるものは何ですか（複数選択）



全体では「時間がない」、「十分な情報がない」、「ボランティア活動になじみがない」の順であった。

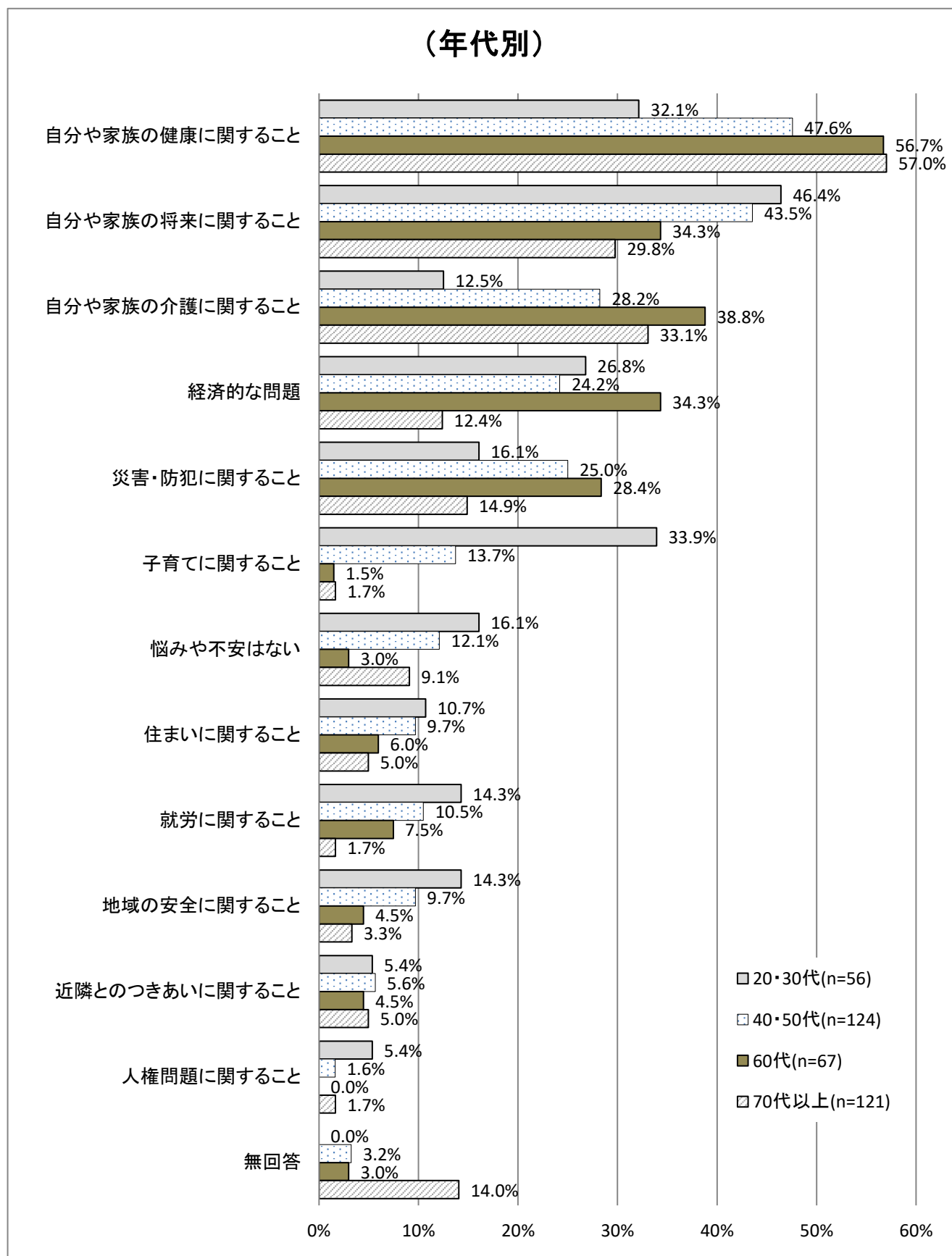
「ボランティア活動に参加するつもりはない」は全体で11%程度で、年代では20～60代は8%程度、70代以上は14%程度である。

問 19 あなたは普段の暮らしの中で、どのような不安や悩みを感じていますか。(複数選択)



男女差は大きくはないが、「災害・防犯に関すること」、「子育てに関すること」、「悩みや不安はない」は女性が多く、「住まいに関すること」、「就労に関すること」は男性が多かった。

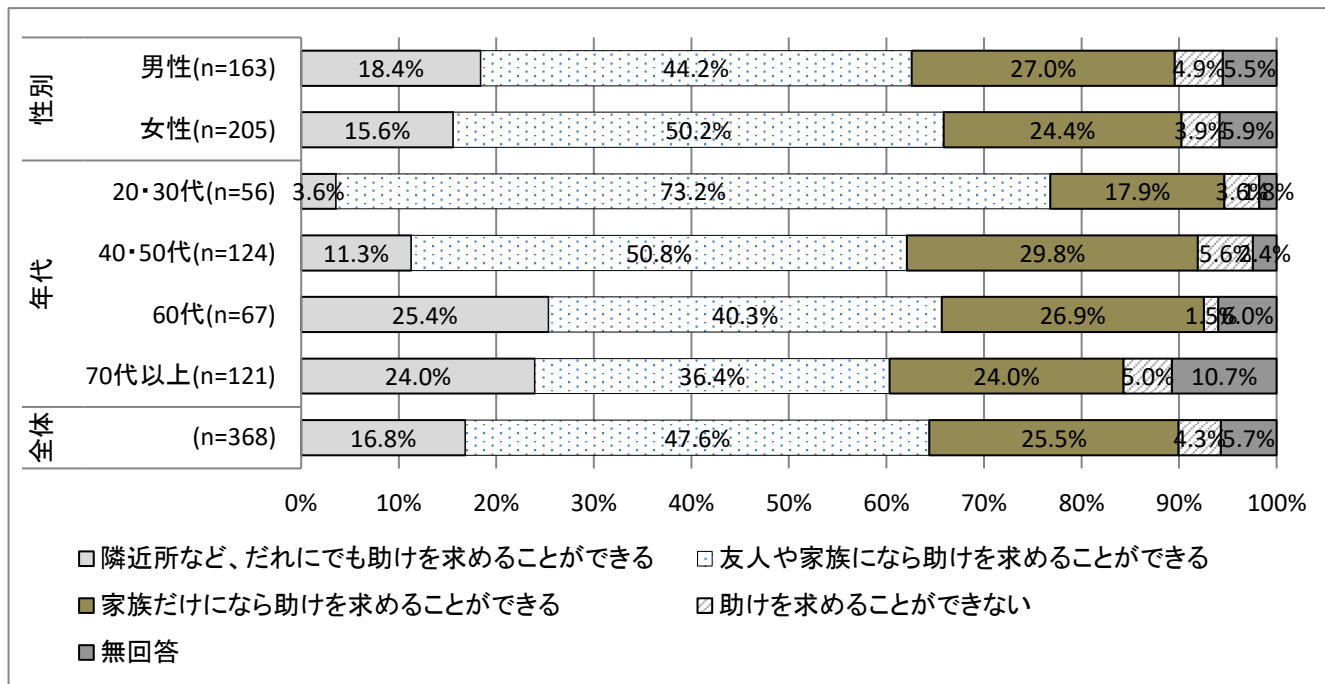
あなたは普段の暮らしの中で、どのような不安や悩みを感じていますか。(複数選択)



全体では「自分や家族の健康に関すること」、「自分や家族の将来に関すること」、「自分や家族の介護に関すること」、「経済的な問題」の順であった。

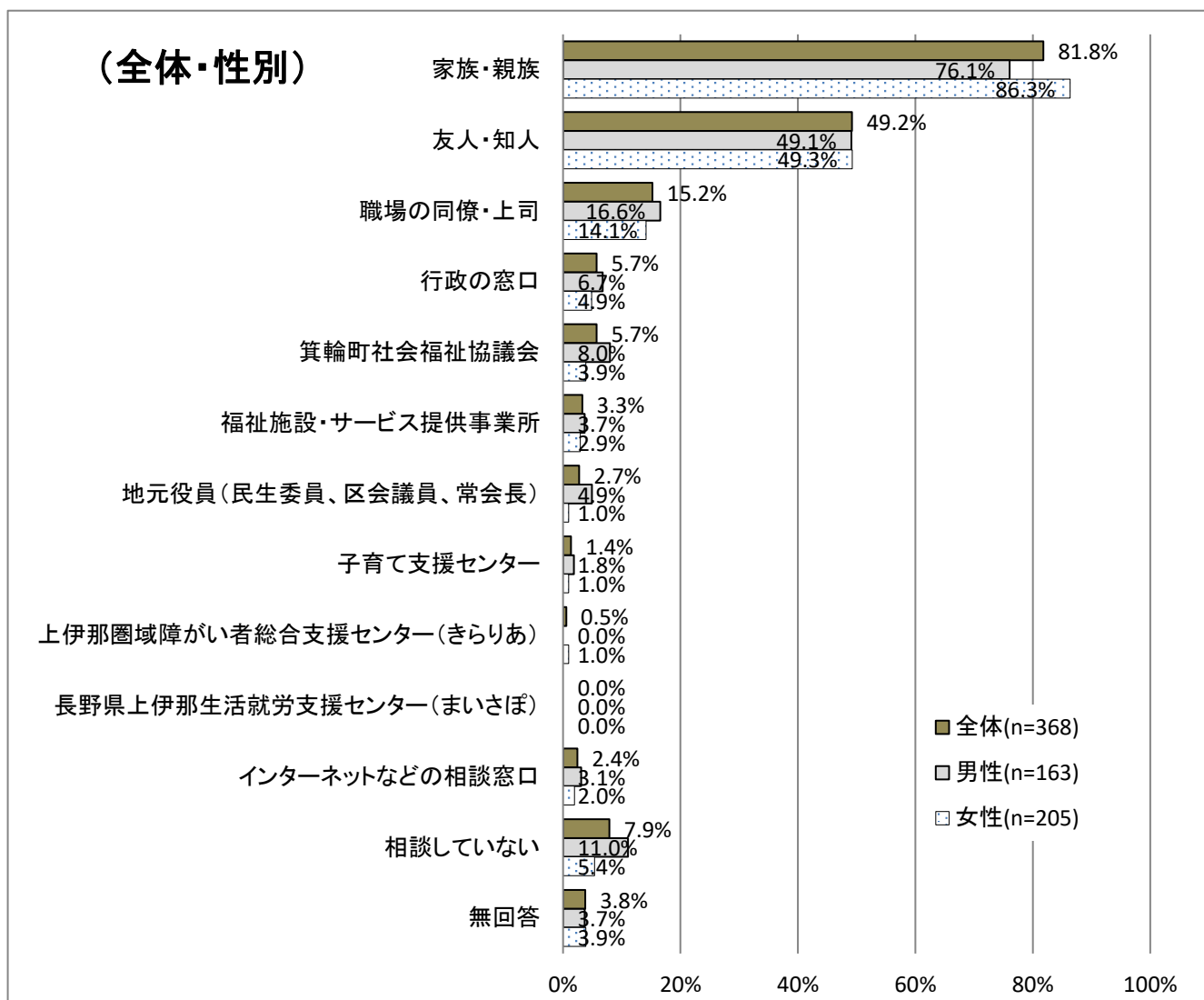
年代別では「自分や家族の健康に関すること」、「自分や家族の介護に関すること」は年代が増えるとも増加し、逆に「自分や家族の将来に関すること」は減少している。経済的な問題では60代が一番多かった。子育てに関することは特に20・30代が一番多かった。

問 20 あなたは困っている時に助けを求めることができますか。(〇は1つ)

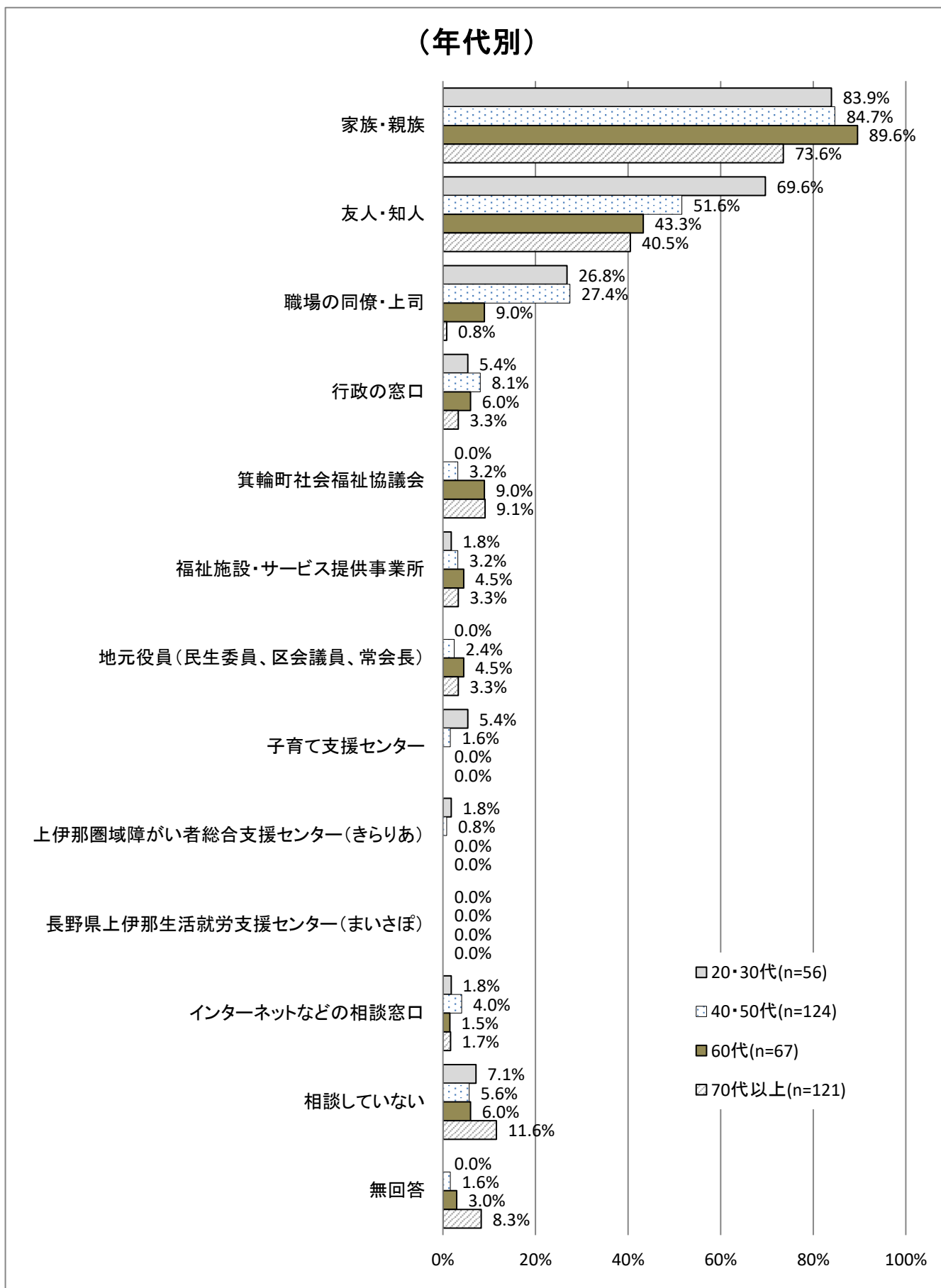


全体では「友人や家族になら助けを求めることができる」が多く、「家族だけになら助けを求めることができる」、「隣近所など、だれにでも助けを求めることができる」の順である。60代以上では「隣近所など、だれにでも助けを求めることができる」が増加。5%弱が「助けを求めることができない」を選んでいる。

問 21 あなたが悩みや不安を感じた時や生活に困った時、誰に相談をしていますか。(複数選択)



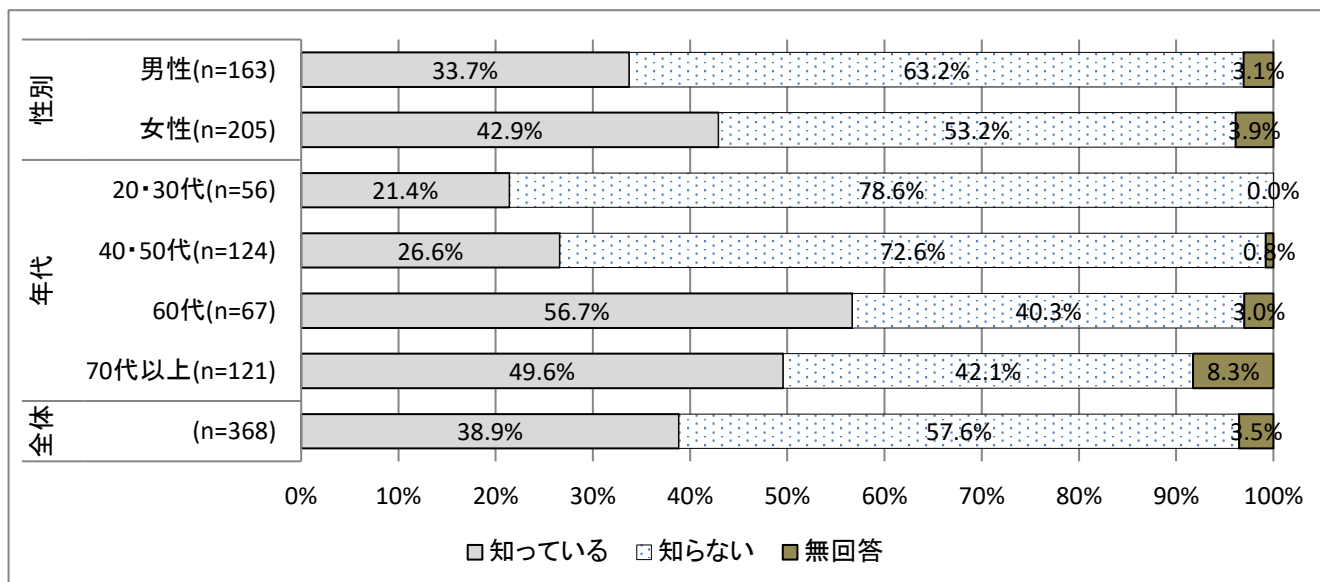
あなたが悩みや不安を感じた時や生活に困った時、誰に相談をしていますか。(複数選択)



全体では「家族・親族」、「友人・知人」「職場の同僚・上司」の順であった。家族・親族を相談先に女性のほうが多く選んでいる。公的機関や事業所を相談先と選ぶのは1割以下であった。

「相談していない」を選んだ方が8%程度おり、男性のほうが多く、70代以上が多い。

問 22 「困りごと相談窓口」をご存知ですか。

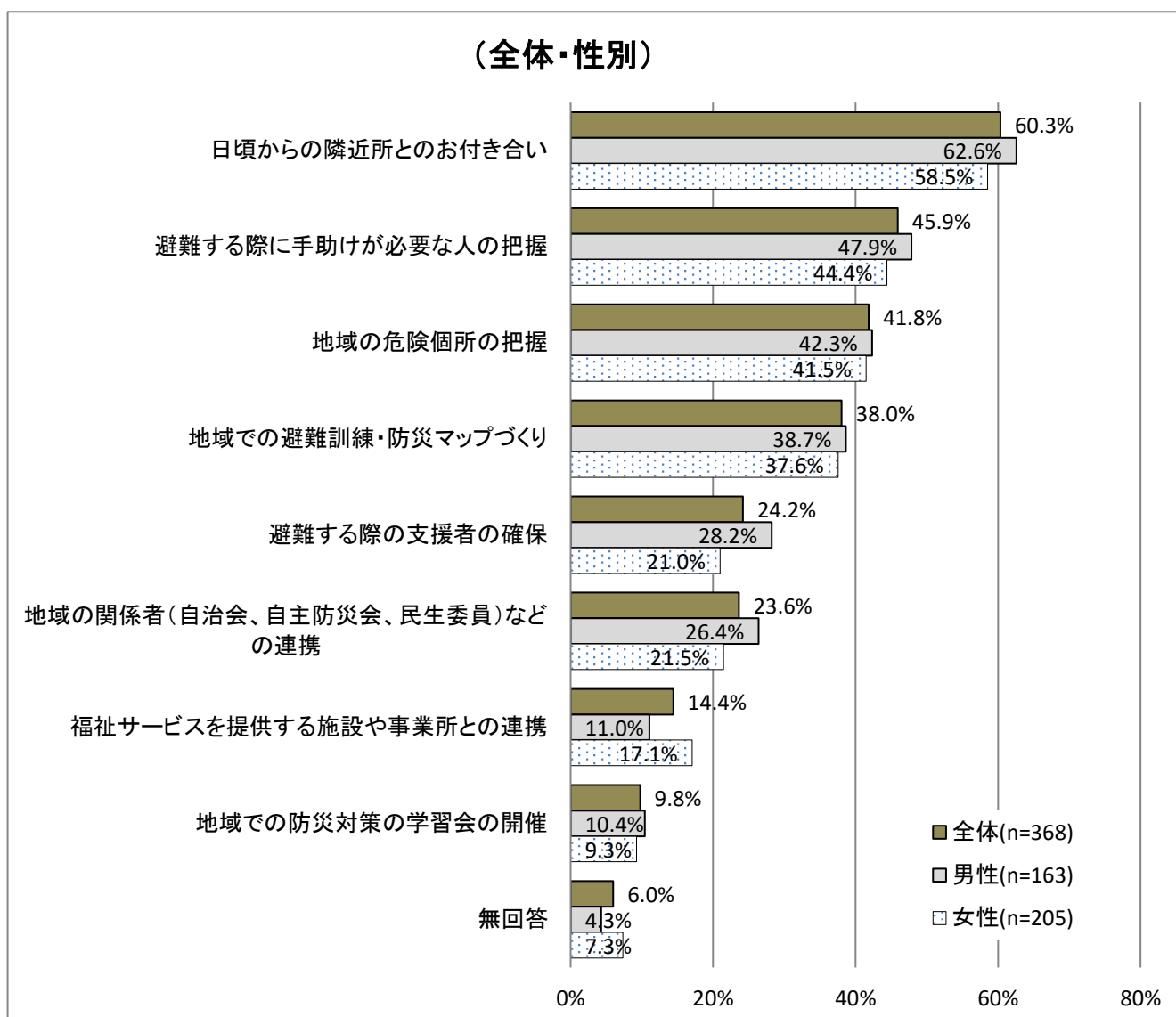


全体の 39%が「困りごと相談窓口※」を知っている。

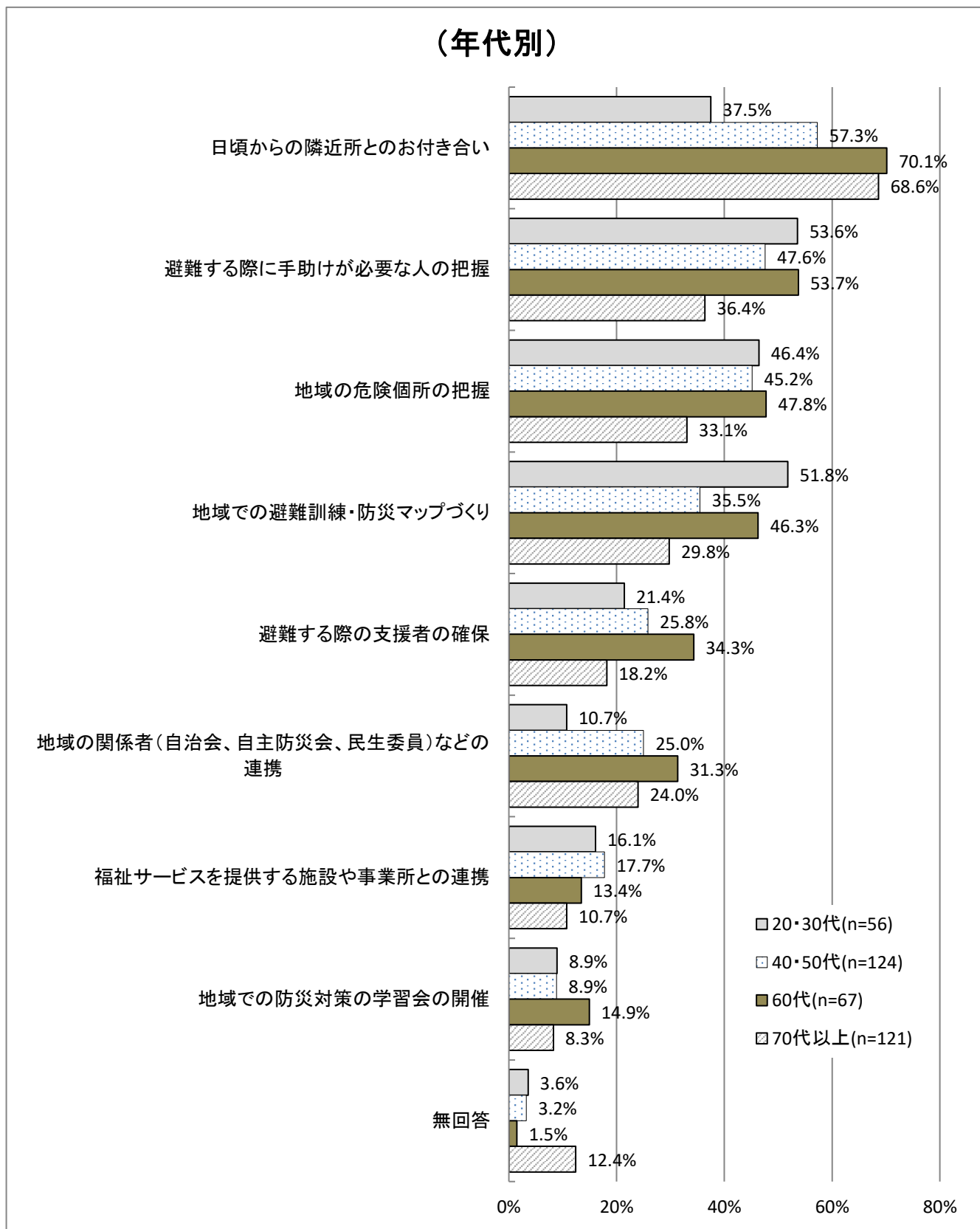
20・30代、40・50代では27%以下しか知っていなく、60代以上でも50%程度しか知られていない。

※「困りごと相談窓口」は、役場や社会福祉協議会にある病気や障がい、失業などの様々な困りごとを気軽に相談できる窓口です。

問 23 災害時に住民が支えあう地域づくりに必要なものは何だと思いますか。(複数選択)



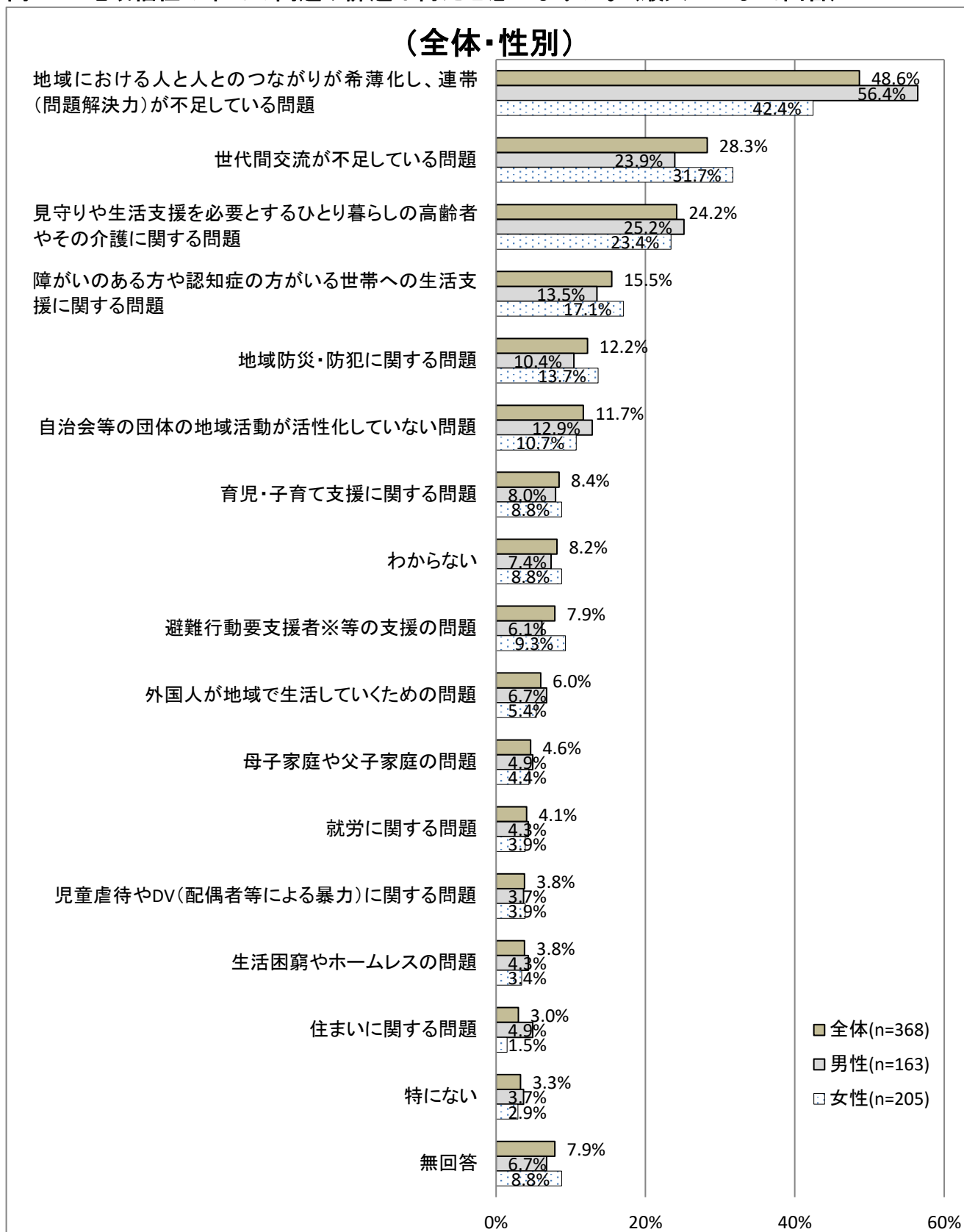
災害時に住民が支えあう地域づくりに必要なものは何だと思いますか（複数選択）



全体では「日頃からの隣近所とお付き合い」、「避難する際に手助けが必要な人の把握」、「地域の危険個所の把握」の順であった。男女差は大きな差は見られない。

「日頃からの隣近所とお付き合い」は年代が増えるると増加し、「避難する際に手助けが必要な人の把握」、「地域の危険個所の把握」、「地域での避難訓練・防災マップづくり」は若い年代のほうが多い。

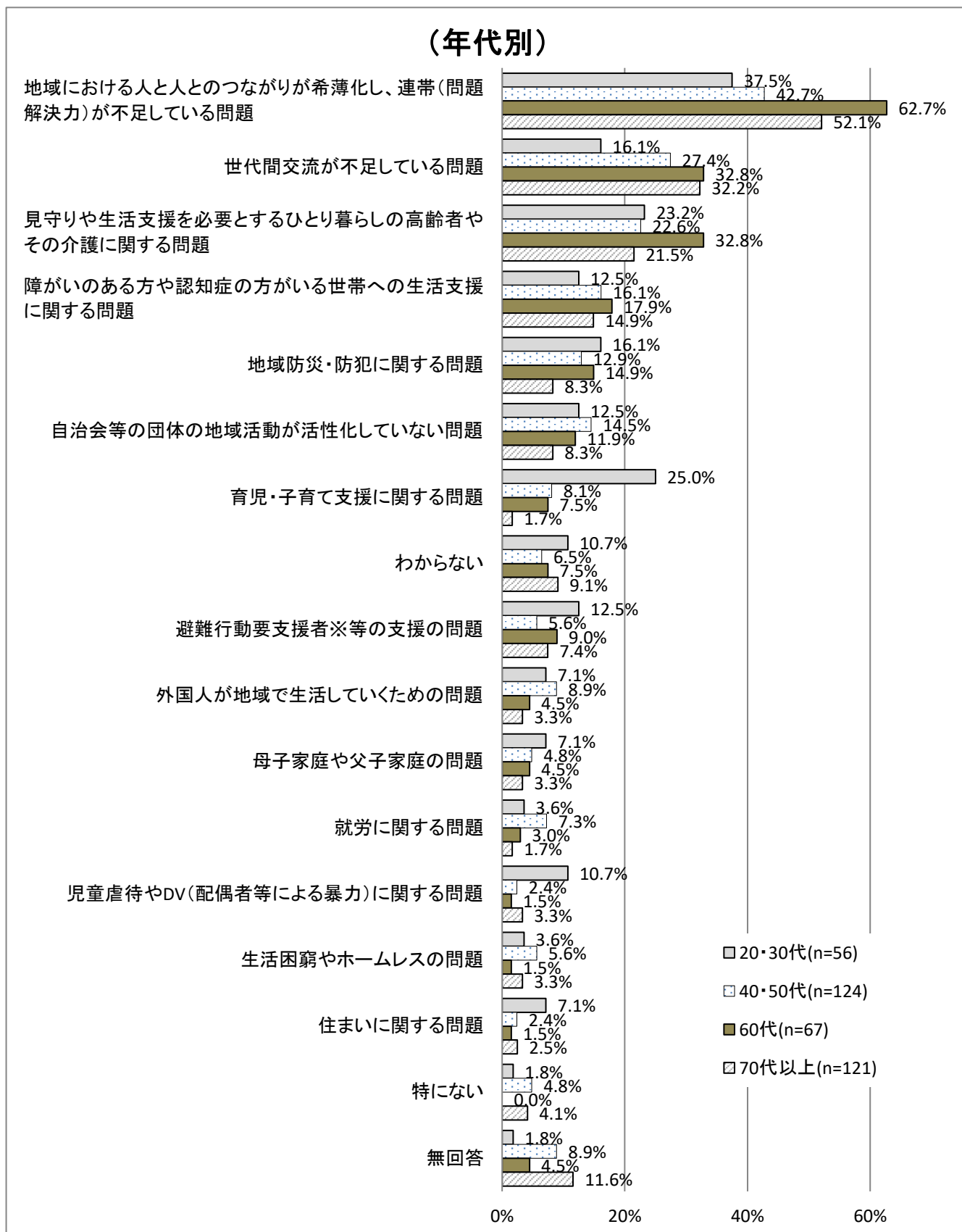
問 24 地域福祉の中での問題や課題は何だと思いますか。(最大3つまで回答)



全体は「地域における人と人とのつながりが希薄化し、連帯（問題解決力）が不足している問題」、「世代間交流が不足している問題」、「見守りや生活支援を必要とするひとり暮らしの高齢者やその介護に関する問題」、の順であった。

男女別では、男性は「地域における人と人とのつながりが希薄化し、連帯（問題解決力）が不足している問題」に、女性は「世代間交流が不足している問題」、「障がいのある方や認知症の方がいる世帯への生活支援に関する問題」、「地域防災・防犯に関する問題」に大きな差が見られる。

地域福祉の中での問題や課題は何だと思いますか。(最大3つまで回答)



40代以上は「地域における人と人とのつながりが希薄化し、連帯（問題解決力）が不足している問題」、「世代間交流が不足している問題」、「見守りや生活支援を必要とするひとり暮らしの高齢者やその介護に関する問題」、の順であるが、20・30代は「地域における人と人とのつながりが希薄化し、連帯（問題解決力）が不足している問題」、「育児・子育て支援に関する問題」、「見守りや生活支援を必要とするひとり暮らしの高齢者やその介護に関する問題」の順であり、他の項目でも20・30代は40代以上と違う地域福祉の課題を感じている。